「Die Brücke 架け橋」第677号 平成26年 8 月 1 日発行（隔月刊）公益財団法人日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌

2014 8

表紙のことば 「サッカー・ワールドカップ 2014」

ドイツ人がサッカーを大好きなこと、きっともうご存知ですよね？今年ブラジルで行われたワールドカップで、ドイツ人はドイツチームを毎回心から応援して、盛り上げてきました。ドイツでは、数え切れないほどの人がドイツ国旗を振り、選手のユニフォームやレイ、メガネなどのフェイスグッズをつけ、ペインティングをし、バーやパブリックビューイングで試合を観ました。

東京でも、ドイツ大使館とゲーテ・インスティトゥート東京の共催で、決勝戦のパブリックビューイングイベントが開催されました。日本時間で早朝 4 時の試合スタートだったにも係らず、ドイツ人だけでなく、ドイツやサッカーファンの日本人がたくさんドイツ文化センターに集まり、ドイツ対アルゼンチンの試合を観戦しました。Dr. フォン・ヴェアテルン ドイツ大使と奥様もいらしたのは素晴らしかったです。ホールだけでは足りず、ロビーや 2 階でもファンたちはスクリーンの前に集まって観戦し、至る所で、「Schland!」という声が響きました。「Schland」はドイツを応援する時の掛け声で、ドイツを意味する Deutschland の頭（Deut）を取った言葉です。応援する時に Deutschland は長くて言い難いですから。2006 年にドイツでワールドカップが開催された時に一気にポピュラーになりました。皆さんも今度ぜひ使ってみて下さい。

日本なのにドイツと変わらない熱気で、一緒にドイツチームを応援できてとても気持ち良かったです。普段、日本人はドイツ人に比べてあまり感情を見せないのに、マリオ・ゲッツェがゴールを決めた時の雰囲気や喜び方は凄かったです。

そして、ドイツ代表が優勝し、トロフィーをもらいました丶(^o^)ノドイツの優勝はこれで 4 回目ですが、前回の優勝はドイツが統一する前で 24 年ぶりのことです。いつも惜しいところで優勝を逃してきたので、ドイツが 2014 年 W 杯のチャンピオンになったことがどこかまだ信じられません。でも、ドイツは本当に強かったですから、メルケル首相が言ったように「次の優勝までまた 24 年待つことはない」と思います！（アニャ・ケーテナー）

（写真提供：ゲーテ・インスティトゥート東京）

Zum Titelblatt:Fußballweltmeisterschaft 2014

Sie wissen doch sicherlich, dass die Deutschen Fußball lieben, oder? Die Deutschen haben ihr Team bei der diesjährigen Meisterschaft in Brasilien bei jedem Spiel aus vollem Herzen unterstützt und angefeuert. In Deutschland haben unzählig viele Menschen die Spiele in Bars oder beim Public Viewing genossen. Dabei schwenken sie deutsche Fahnen, trugen Trikots deutscher Spieler sowie Blumenketten und Brillen in deutschen Farben und hatten geschminkte Gesichter.

Auch hier in Tokyo hat die deutsche Botschaft in Zusammenarbeit mit dem Goethe-Institut das Finale als Public Viewing ermöglicht. Ungeachtet dessen, dass das Spiel nach japanischer Zeit morgens um 4 Uhr stattgefunden hat, haben sich nicht nur Deutsche sondern auch viele japanische Deutschland- und Fußballfans im Goethe-Institut versammelt und das Spiel zwischen Deutschland und Argentinien verfolgt. Dass sogar der Botschafter, Herr Dr. von Werthern und seine Frau dazugekommen sind, war fantastisch. Nicht nur der Saal, auch in der Lobby und im 2. Stock versammelten sich die Fans vor den Bildschirmen, erfreuten sich am Spiel und riefen „Schland!“. Der Begriff „Schland“ wird bei Anfeuerung des Teams gerufen. Es ist die Kurzform von „Deutschland“, wobei das „Deut“ wegfällt. Denn der Ruf „Deutschland“ ist dann doch etwas zu lang, oder? Der Begriff ist seit der Weltmeisterschaft 2006, die in Deutschland ausgetragen worden ist, äußerst beliebt geworden. Benutzen Sie den Ausruf beim Anfeuern auch ruhig einmal.

Obwohl wir in Japan sind, glich die begeisterte Atmosphäre der in Deutschland und es war ein tolles Gefühl mit so vielen Fußballfans gemeinsam das deutsche Team zu unterstützen. Gewöhnlich zeigen die Japaner im Gegensatz zu den Deutschen verhaltener ihre Emotionen, doch nach dem Tor von Mario Götze war die Stimmung und Freude fantastisch. Und Deutschland hat gewonnen und den Pokal geholt 丶(^o^)ノNun hat das Team zum vierten Mal die Meisterschaft gewonnen und der letzte Titel ist bereits 24 Jahre her, das war also noch vor der Wiedervereinigung. Weil wir leider immer den Titel verpasst haben, ist es immer noch unglaublich, dass wir Fußballweltmeister 2014 geworden sind. Aber da Deutschland wirklich stark gewesen ist, glaube ich wie die Bundeskanzlerin Merkel, dass „der nächste Titel nicht wieder 24 Jahre auf sich warten lassen wird“. (Anja Kätner)

(Bildquelle: Goethe-Institut Tokyo)

目　次　　ページ／ Seite　　INHALT

初学者のためのドイツ連邦共和国の国家の仕組み フェリックス R. アインゼル	1	**Das deutsche Staatssystem für Anfänger** Felix R. Einsel
ドイツ経済の動き 伊崎　捷治	3	**Tendenz der deutschen Wirtschaft** Shoji Isaki
特別寄稿 「第一次世界大戦から百年。そしてプロイセン、ドイツの辿った道」 稲川　照芳	4	**Beitrag** „100 Jahre seit dem Ersten Weltkrieg. Der deutsch-preußische Weg.“ Teruyoshi Inagawa
黄金の琥珀に純白の泡 ～ Vol.8 ライン川のライバル＜後篇＞～ 松沢　幸一	6	**Das goldgelbe kühle Nass mit dem schneeweißen Schaum Folge 8: Rivalen am Rhein（Teil 3）** Dr. Koichi Matsuzawa
Berliner Luft ベルリンの最新情報	7	**Berliner Luft : Neuigkeiten aus Berlin**
全国日独協会連合会総会レポート	8	**Bericht von der Generalversammlung des Verbandes der JDGen**
講演記録「いまどき外国語学習法」 ラース・バウアー	10	**Vortrag** „Sprachlernmethoden von heute“ Lars Bauer
会員からの投稿「ドイツ留学生活・ラスト 1 カ月」 芹澤　晃	12	**Bericht eines Mitgliedes „Nur noch ein Monat bis zum Ende des Austauschjahrs!“** Akira Serizawa
ドイツ語受講生からの投稿 「フランツィスカさんへの手紙―浅草の大提灯とおいしい天丼―」 山中　みどり	13	**Bericht einer Deutschschülerin** „Ein Brief an Franziska–Ein großer Lampion in Asakusa und ein leckeres Tendon–“ Midori Yamanaka
平成 25 年度事業報告・決算報告・寄付者報告・役員リスト	14	**Bericht der Japanisch-Deutschen Gesellschaft für das Geschäftsjahr 2013・Bericht zum Rechnungsabschluss 2013・Bericht über Spenden・Liste der Vorstandsmitglieder**
文化の玉手箱「東京演劇アンサンブル『屠畜場の聖ヨハンナ』」 田中　洋	17	**Kulturkiste** „Die heilige Johanna der Schlachthöfe“ Hiroshi Tanaka
協会活動	18	**JDG-Aktivitäten**
つくば巨人のアニャ アニャ・ケーテナー	19	**Anja, eine Riesin aus Tsukuba** Anja Kätner
会員のひろば／ドイツ関連情報いろいろ	20	**Aus dem Mitgliederkreis / Die Informationen**
コラム「驚いてン Sie!?」 タベア・カウフ	21	**„Odoroiten Sie!?“** Tabea Kauf

初学者のためのドイツ連邦共和国の国家の仕組み　Das deutsche Staatssystem für Anfänger
その 15　ドイツの戦後処理　Teil 15. Bewältigung der Nachkriegszeit in Deutschland

フェリックス R. アインゼル（ゾンデルホフ＆アインゼル法律特許事務所 弁理士、（公財）日独協会理事）
Felix Reinhard Einsel（Patent Attorney, Sonderhoff & Einsel Law and Patent Office, Vorstandsmitglied der JDG）

今回はドイツの戦後補償を採り上げてみたい（注：ここで、補償とは国家に対しての賠償及び個人に対する補償の双方を含むものと定義する）。ドイツの戦後補償政策を表現するのに今日一般的に定着している用語として „Wiedergutmachungspolitik“（“罪滅ぼし政策”とでも訳せようか。）というものがある。この用語は、戦後、ナチスによって様々な迫害を受けた人々に対するドイツ国家による実体的な補償の総称として現在使用されている(1)。その一方で、この言葉はドイツが 600 万人のユダヤ人の大量虐殺について“罪”を“滅ぼす”こと、すなわち“罪”を“清算”することが可能であるかのように誤解され得るとして、適切な用語ではないという批判もある(2)。

第一次世界大戦の補償について定めたベルサイユ条約（Versailler Friedensvertrag）のように、戦後補償においては、通常、敗戦国が戦勝国に対して補償をする、すなわち国家が国家に対して金銭などの補償をするという手法が伝統的である(3)。しかし、第二次世界大戦においては、被害者の一部が現在または過去にドイツ国籍を有していた者達であったこと(4)（政治犯、精神病者や同性愛者など）、また、他の一部においては、それらの者の利益を代理する国家そのものが存在しない(5)（イスラエル建国以前のユダヤ人や他の無国籍者）場合もあったことから、伝統的な補償の手法では事の解決につながらなかった。このような背景から、それぞれの当事者も補償の根拠や対象について異なる考え方を持っていた(6)。ドイツにおいては、政治犯やドイツ在住のユダヤ人を中心に補償をすべきという強い意見が存在していたし(7)、ユダヤ人はナチスが自己の民族の集団虐殺（Völkermord）を試みた点に重点を置き、ユダヤ人に対しての補償を迫った(8)。さらに連合国、特に米国は、ナチスの政策が生んだ国際的な難民問題による各国が負う負担を主眼に置いていた(9)。

結果、戦後補償の問題については、多様な視点からの議論が必須であったし、また、その補償の方法についても多様な手法を用いることが求められた。その意味で、**ドイツの戦後賠償の特徴は、支払い対象が除々に拡大**されていった点にあるということができる(10)。以下、戦後の主要な補償事例を時系列順に紹介してみたい。なお、いわゆる東ドイツの戦後補償についてはここでは省くが、主として、ソ連、そしてポーランドに対する国家への補償が中心となり、被害者個人に対する補償は重要度が格段に低かった点において、被害者個人への補償が中心的であったいわゆる西ドイツの戦後補償とは根本的に異なっていた(11)。

ドイツによる最初の補償はドイツ連邦共和国が建国された 1949 年以前の連合国統治下のときまで遡る。英米仏、それぞれが統治した地域に制定された法律は微妙に異なるものの、ナチス政権下において取り上げられた不動産や会社で、現在ユダヤ人でない私人の所有となっているものの返還について規定する法律が定められた(12)。しかし、多くの財産はナチス政権（国）によって取り上げられたものであるため、1949 年より以前は返還を求める相手方が存在しない（国がない）という状況にあり、このためにはドイツ連邦共和国の建国を待たなければならなかった(13)。このような財産については 1957 年に連邦返還法（Bundesrückerstattungsgesetz）が制定された(14)。

ドイツの戦後補償の根幹となる法律となるのは、1956 年に制定された連邦賠償法（Bundesentschädigungsgesetz）である(15)。被害者に 2002 年当時までなされた補償の総額は 600 億ユーロを越えるが、このうち約 430 億ユーロは連邦賠償法に基づく補償である(16)。連邦賠償法の特徴は、基本的には補償の対象を人種、宗教及び政治的理由に基づき迫害されていたドイツ国籍者で、現在いわゆる西側諸国で生活しているものに限定していた点である(17)。1953 年にドイツと西側諸国の間で結ばれたロンドン債務協定によって、西側諸国及びその国民からの補償請求はドイツとそれらの国との講和条約の締結を待つと規定された。このような規定を設けた趣旨は、東西ドイツの統一を待って講和条約を締結する点にあった(18)。ロンドン債務協定は、西側諸国及びその国民がドイツに対して補償請求をする際の大きな壁として立ちはだかった。

イスラエル及び、イスラエル国外に住むユダヤ人被害者の利益を代表するユダヤ人賠償請求会議（Claims Conference）は 1952 年、ドイツとの直接交渉において、それぞれ、30 億マルク、4 億 5 千万マルクの補償について合意した(19)。

そのような二国間協定に基づく補償はその後も続き、1959 年と 1964 年の間に総額 8 億 7 千 6 百万マルクが 11 の西欧諸国に対してナチス被害者のために支払われた(20)。西ドイツ政府は当初、ロンドン債務協定を楯に支払いを拒む姿勢をみせていたものの、交渉において強制労働に従事していた者を支払い対象に含まないことや、ドイツがそれぞれの被害者に対してではなく政府に直接一括支払いを行うことにより、その管理をしなくて済むことにするなどを条件として、補償に同意した(21)。結果、被害者の受取り額は支払いを受けた政府によって決められ、フランスでは一人平均 4000 マルク、オランダでは一人平均 2500 マルクなどを手にした(22)。

長い間救済を受けられなかった被害者としては、第二次世界大戦後、鉄のカーテンの陰にあった東欧諸国（ロシアを含む）の被害者がある(23)。

冷戦の終結に伴い、ドイツ政府は 90 年代に財団を設立させ、そこを経由してユダヤ人や強制労働者（戦時中、主として東欧出身でドイツの企業において強制労働に従事させられていた者たち。その数は、約 10 万人と推定される(24)。）などの被害者に一定金額が支払われた(25)。ポーランド、ロシア、ベラルーシ、ウクライナにそれぞれ設立された財団から、被害者一人当たり 500 マルクから 1400 マルクが約 140 万人に渡された(26)。その後、それ以外の東欧諸国にも補償を行っている(27)。同じ 90 年代には米国との間で秘密裏に協定が結ばれ、ナチスの強制収容所にいた補償として一人平均 10 万ドルを受け取っている(28)。東欧諸国と米国の被害者の扱いの違いには愕然とさせられる。

また、東欧諸国のユダヤ人被害者のためにユダヤ人賠償請求会議などが行った請求をもとに、ドイツ政府は 1999 年を皮切りに 2 億マルクの支払いを行うこととなった(29)。

強制労働者については、ドイツ企業が単にナチス政権の道具であったとして（Werkzeugtheorie）その法的責任を否定し続けてきたが(30)、強制労働を原因に米国において 1998 年から提起された多くの訴訟がドイツ企業の真の国際化を図る上で弊害となることが危惧された結果(31)、2000 年に財団「記憶・責任・未来（Erinnerung, Verantwortung und Zukunft）」が設立された(32)。ドイツ政府及び企業がそれぞれ 50 億マルクを支出し、一人 5000 マルクから 15000 マルクが補償された(33)。

東欧出身の被害者の差別的な扱いが概ね取り除かれた点において、その意義は大きい(34)。なお、強制労働者、同性愛者、シンティ・ロマなど、長い間補償の対象とならなかった者について、それらについても補償をすべきであるという議論が 80 年代あたりから盛んに行われるようになったが、ドイツではそれらを総じて「忘れられた被害者（Vergessene Opfer）」と呼んでいる(35)。

最近新たに出てきた問題として、ユダヤ人のホロコースト被害者の子孫が被ったトラウマを原因とするドイツに対しての補償請求というものがある(36)。心理学者の一部には、ホロコースト被害者のトラウマが 5 － 10% の事例において次の世代に遺伝するという説をとなえる者があるということをその根拠としている(37)。

今年、2014 年に入ってからもギリシャ北部の町テッサロニキ（Thessaloniki）のユダヤ人コミュニティがドイツ政府に補償を求めている。テッサロニキにおいて強制労働に従事させられた数千人のユダヤ人に対して、アウシュビッツ強制収容所への連行を阻

止するため、ユダヤ人コミュニティが身代金として、現在の価値にして４千５百万ユーロを支払ったというのである(38)。

このように、ドイツの戦後補償政策の根幹をなす„Wiedergutmachungspolitik“は**国境・世代**を越える現象へと成長してきた(39)。今日、それは国際的なモデルを形成するようになっており、戦争、独裁政治または植民地支配の結果、被害を被った者の救済に今後役立つのではないかと期待されている(40)。他方、過去と過度に向き合うことで加害者と被害者を常態化させ、結果的に紛争の永続化を招く恐れも指摘されている(41)。

なお、ドイツの政府は自身が行った補償について、あまり対外的にはそれを強調しようとはしていない(42)。金銭的な賠償のみによっては、被害者・被害国の信頼を勝ち取ることは不可能であることを知っているからに他ならない。重要なことは、将来２度と同じ過ちを起こさないと被害者・被害国を信頼させるような政治家・マスコミ・国民の態度、すなわち非金銭的な側面である(43)。こちらは半永久的な課題である。そこで、次回から順を追ってドイツのマスコミ、教育制度、政治家がナチスの時代とどのように向き合っているかについて議論を進めたい。なお、このような機会に日本の戦後補償についても一度是非勉強していただきたい。

＜引用文献＞

(1) Wikipedia「Wiedergutmachungspolitik」
(2) Reichel, Schmid, Steinbach, Der Nationalsozialismus - die zweite Geschichte, 2009, S.62, C.H. Beck
(3) 前掲注(2)、S.64
(4) 前掲注(2)、S.64
(5) 前掲注(2)、S.64
(6) 前掲注(2)、S.64
(7) 前掲注(2)、S.64
(8) 前掲注(2)、S.64
(9) 前掲注(2)、S.64
(10) 熊谷徹「ドイツは過去とどう向き合ってきたか」16頁（高文研、2007年）
(11) 前掲注(2)、S.70-71
(12) 前掲注(2)、S.65
(13) 前掲注(2)、S.65
(14) 前掲注(2)、S.65
(15) 前掲注(2)、S.68
(16) 前掲注(2)、S.68
(17) 前掲注(2)、S.68
(18) 清水正義「戦後補償の国際比較」、http://www.geocities.jp/dasheiligewasser/essay3/essay3-3.htm
(19) 前掲注(2)、S.73-74
(20) 前掲注(2)、S.75
(21) 前掲注(2)、S.75
(22) 前掲注(2)、S.75
(23) 前掲注(2)、S.80
(24) Ernst Piper, Nationalsozialismus, Seine Geschichte von 1919 bis heute, S.279, Prospero Verlag
(25) 前掲注(2)、S.80
(26) 前掲注(2)、S.80
(27) 前掲注(2)、S.80
(28) 前掲注(2)、S.81
(29) 前掲注(2)、S.82
(30) 前掲注(2)、S.78
(31) 前掲注(2)、S.82
(32) 前掲注(2)、S.83
(33) 前掲注(2)、S.83
(34) 前掲注(2)、S.83
(35) 前掲注(2)、S.72
(36) 前掲注(2)、S.84
(37) Christoph Schult, Lebenslang verantwortlich, Der Spiegel, Nr. 45, S.154-158
(38) Nazi-Verbrechen: Juden in Thessaloniki fordern Entschädigung von Deutschland, http://www.spiegel.de/politik/deutschland/juden-in-thessaloniki-fordern-entschaedigung-von-deutschland-a-955633.html
(39) 前掲注(2)、S.84
(40) 前掲注(2)、S.84
(41) 前掲注(2)、S.84
(42) 熊谷徹「ドイツは過去とどう向き合ってきたか」19頁（高文研、2007年）
(43) 同趣旨のものとして、熊谷徹「ドイツは過去とどう向き合ってきたか」19頁（高文研、2007年）

ドイツ経済の動き 第28回
～短い労働時間で高い生産力

➢➢➢ 見当たらない過労死

日本では去る6月28日、「過労死防止法」が公布されました。後を絶たない過労死を防ぐための様々な方策を推進する法律とのことです。一方、労働時間にかかわらず時間外手当を支給しない制度を導入することも検討されています。

ドイツ人は勤勉で知られますが、過労死の問題は起きていないのでしょうか。

ドイツでも最近は好調な経済情勢を背景に仕事量が増え、サービス残業を余儀なくされるケースもあるようです。また、企業内の地位や職種によってはストレスや燃え尽き症候群が話題になり、予防策を検討する経営者もあるといったことが伝えられます。しかし、企業の一般の従業員については、日本のような長時間労働による過労死が問題になったケースは見当たりません。

その理由としてまず考えられるのは、労働時間が法律で厳しく制限されていることです。「労働時間法」では、労働日1日の労働時間は原則8時間以内と定められています。労働日は週6日とされていますから、週労働時間は48時間となり、日本の40時間を上回っています。しかし、1日の労働時間は最大で10時間に制限されていて、8時間を超えた分は6週間以内に取り戻して、平均で8時間以内に収めなければないという厳しい制約があります。

労働時間法でもうひとつ重要な点は、1日の仕事を終えて次の仕事を始めるまでに継続して11時間以上の休息時間を置かなければならないことです。

もちろん、いくつかの例外規定はありますが、こうした規制に違反すると、雇用主には罰金のほか、禁固刑を科されることがあります。EUの指針に沿った制度ですから、ほかのヨーロッパ諸国の多くが同様に定めています。ただし、自営業者や管理職は労働時間法の対象外です。

➢➢➢ 仕事との間に強い一体感

ドイツでは実際の労働時間は一般に産業別に労働組合と使用者団体の協定で定められ、現在は全産業の平均で1週間あたり35.5時間と、法律の上限を大きく下まわっています。また、年休取得日数は日本の約9日に対して、ドイツは30日を超えています。この結果、ドイツにおける年間労働時間は1.395時間で、日本の1.745時間の約8割にとどまっています。

その分、働いて生み出す量も少ないかといえば、決してそうではありません。2013年のIMFの数字では、ドイツのひとりあたりGDPは日本を約17％上回っています。働く時間は日本人よりも少ないのに、日本以上の価値を生産できるのはなぜでしょうか。ドイツ人は勤勉で仕事の密度が高いことや、付加価値の高い製品を多く生産していることなど様々な見方があります。

この関連では労働組合連合会（DGB）が企業の従業員に対して最近行ったアンケート調査の結果も注目されます、それによると、「仕事と自分に強い一体感を感じる」と答えた人は全体の86％に達しています。また、「上司が自分の価値観を尊重してくれる」と答えたのは全体の3分の2を超えており、「仕事の時間をある程度は自分で決められる」人も半分を占めます。仕事が増える中にあって、上司との関係は良好で、仕事に強い生きがいを感じながら働くドイツ人が多いことが分かります。

ドイツ人は教育制度からするとほとんどが公認の職業資格を持っていると想定され、その意味でそれぞれが各分野の専門家であるという独特の社会を形成しています。それが前提になってはいますが、上のアンケート調査からは、企業が従業員を合理的に配置し、各人が能力を存分に発揮できる機能的な企業システムを構築していることが読み取れ、これも短い時間で高い生産性を達成する要因だといえます。

伊崎捷治（当協会会員、元ベルリン独日協会副会長）

特別寄稿 Beitrag

第一次世界大戦から百年。そしてプロイセン、ドイツの辿った道

稲川　照芳
（元ハンガリー大使・当協会会員）

100 Jahre seit dem Ersten Weltkrieg. Der deutsch-preußische Weg.

Teruyoshi Inagawa
（Botschafter a.D., Mitglied der JDG）

はじめに

私がプロシャ（以下ドイツ流にプロイセンとする）に個人的にも興味を持ったのは、外務省の上級研修生として西ドイツ(1960年代末当時)のチュービンゲン大学に学んで以来だ。チュービンゲンの高いところに行けばホーエンツォレルンの城が遠くに見える。プロイセンを作ったホーエンツォレルン家の元祖の城である。典型的な中世の美しい城である。そこには当時、フリードリッヒ大王の棺も安置してあった（1990年のドイツ統一後その棺はドイツ政府の手でポツダムにあるサン・スーシー宮殿の前庭に埋葬し直された)。

本年2014年は、第一次世界大戦勃発から100年目に当たる。また、本年3月には、第一次世界大戦と密接に関係するといってもいいクリミヤ半島の情勢にも激変が起っている。この機会に第一次世界大戦、その際にプロイセン、ドイツの辿った道、その後のドイツを主として外交面から振り返ってみよう。特に目新しいものではないと思われるが、知識を整理する意味で参考に供する。

1．プロイセンの歴史

シュヴァーベンのホーエンツォレルンの城が築かれたのはいつのことかわからない。この城が文献に初めて登場したのは11世紀後半といわれる。然しその後、城の主はおそらくは欧州を襲った民族大移動を逃れて、一族の一部は北と東に活路を見出していった。一族の中でフリードリッヒが1192年にニュルンベルク城伯に奉じられ、更に同名のフリードリッヒが1415年にブランデンブルク辺境伯となり、そして、1511年には同族のフランケン・アンスバッハ家のアルブレヒト・ブランデンブルク辺境伯（皇帝を選出する権利を有する七選帝侯の一人）が同時にドイツ騎士団のプロイセンのトップに任命され、ここに（ブランデンブルク）プロイセンの新たな歴史が始まった。はじめはブランデンブルクとプロイセンは人的同盟で結ばれていたが次第にブランデンブルクのホーエンツォレルン家が強くなり、プロイセンは1701年にプロイセン王国（フリードリッヒⅠ世）が東部プロイセンにあるケーニヒスベルクで国王としての戴冠式を挙げ、ここにプロイセン王国になり、1871年にはドイツ帝国（ヴィルヘルムⅠ世）となった。第2帝政と呼ばれる。そして、1914-1918年の第一次世界大戦を迎えるのである（ヴィルヘルムⅡ世)。第一次世界大戦に敗北すると同時にヴィルヘルムⅡ世はオランダに亡命し、その後ワイマール憲法の採択､ワイマール体制､そして1933年のヒットラーの｢第3帝国｣、第二次世界大戦敗戦となったのである。ドイツ帝国がいつ終わったのかドイツの学者の意見は一致しない（ドイツ憲法裁判所の判決の中では、1973年にもまだドイツ帝国は存在している)。しかし常識的には、第二次世界大戦のドイツ敗北により米英仏ソの戦勝4大国に分割統治されることになった時（1945年6月5日)、と見るべきであろう。

2．プロイセンの発展

欧州近代国家の時代に入った30年戦争（1618-1648年）の時プロイセン公国は確固とした同盟国を持たず、国土の大半は戦場となり、焦土と化した。しかしこの間にあっても、プロイセンは国土の開拓と国力、特に軍事力の強化に励んだ。忘れてはならないのは､1685年､フランスでナントの勅令が発せられ、プロテスタントのユグノーが追放されたが、プロイセンはこれらユグノーを積極的に受け入れ、彼らは南フランスからベルリンに移ってくる途中でドイツ各地に技術を始めとする産業の種をまき、その後のプロイセンの産業の発展に貢献したことである。プロイセンの特色としてしばしば官僚制、秩序重視、軍国主義などがあげられるが、こうした寛容性を忘れるべきではない。19世紀のプロイセン文学者であるテオドル・フォンターネ（彼の小説「エフィ・ブリースト」はその頃のプロイセン官僚主義、狭量な人間性を鋭く批判はしているが）もその末裔である。ベルリンでは現在でも数万人のフランス系ドイツ人が活躍している。

王国になって、欧州の大国として注目を浴びるようになったのは、フリードリッヒ大王が登場したときであろう。(1740-1786年)。大王は啓蒙君主としての一面を持つ一方、40年に国王に就任して継承問題に忙殺されていたオーストリアの女帝マリア・テレジアを相手にシレジアを命がけで奪い、更にロシア、オーストリアとともにポーランドを分割した。こうして欧州大国の一角を占めるに至ったプロイセンはやがてフランス革命後のナポレオン皇帝率いるフランスに、イエナとアウエルベルクでの戦いに敗れた（1806年)。確かにフランスは、プロイセンに民主的な制度や近代的な文化をもたらしたが、一方でフランスはプロイセンから見れば占領国であり、フランス憎しの感情が生まれた。こうして、プロイセンにナショナリズムの波がもたらされた。フランスと比較して後進性を思い知らされたプロイセンの指導者たち（例えば、シュタイン、ハルデンベルクなどの政治家、軍人グナイセナウ、フンボルトなどの学者、哲学者フィヒテ、詩人ハインリッヒ・フォン・クライスト、エルンスト・モーリッツ、法律家ザヴィニーなど）は政治、社会の改革に努力した（しかし、このような改革の動きは、1815年のウィーン体制移行後は長続きしなかった)。このような流れの中で、ロシアと関係修復したプロイセンはオーストリアとも連合し、1813年10月、「ライプチッヒ諸国民戦争」でナポレオン軍を打ち負かし、ここにオーストリアの宰相メッテルニヒ主導の「ウィーン体制（1815年)」が成立した。ウィーン会議に於いてもプロイセンは、オーストリア、ロシア、英国、復活したフランスの後塵を拝し、欧州の大国に伍する、とは言えなかった。それでも、その際に成立した3国の神聖同盟（ロシア皇帝、オーストリア皇帝、プロイセン国王）―キリスト教精神によって結ばれた兄弟国として大陸欧州の安定につくす同盟―の一角として反革命のため協力した。此の神聖同盟により欧州大陸を吹き荒れた1830年、1848年の革命の波は乗り切られた（1848-49年のオーストリア国内のハンガリーの革命はロシアの支援で抑えられた）が､1853-1856年のクリミヤ戦争は、オーストリアとロシアの反目を招き、神聖同盟の精神は失われた。クリミヤ戦争とは、ロシアが当時のトルコ内のキリスト教徒およびエルサレムのキリスト教徒保護を名目にボスポラス海峡の通過権獲得を目指し、セバストポールにあるロシア黒海艦隊が地中海などの外洋に出ようとしたため、これに反対する英国・フランスと戦争になったものである。オーストリアはバルカン半島への影響力が脅かされるとして、中立と言いつつも実質的にはロシアに反対していた。

3．ビスマルク時代とドイツ帝国の誕生

⑴　オーストリアを駆逐

フランクフルトに置かれた国民議会(ドイツ諸侯の代表会議)において当時プロイセン代表であったオットー・フォン・ビスマルクは、国民議会を牛耳っていたオーストリアに対抗する気持ちを持ち始め、「ドイツの地は二つの国には狭い」と感じる

ようになった。ロシア公使、フランス大使を経て1862年秋にプロイセンの宰相兼外相に就任したビスマルクは1864年、シュレスビッヒ・ホルシュタイン（デンマークとの国境の公国）の領有をめぐりオーストリアとともにデンマークに勝利し、更に、66年オーストリアにケーニヒグレーツ（プラハ郊外）の戦いで勝利し、ここにプロイセンは、オーストリアをドイツから切り離し、プロイセン主導の北ドイツ同盟を成立させた（大ドイツ主義から小ドイツ主義へ）。その際ビスマルクは、ウィーンまでオーストリアを追い詰めるべきだという国王・軍部の要求に強く反対し、結局オーストリアに対し緩い敗北条件を課すことになった。なお、オーストリアは67年ハンガリーの自治要求と妥協し、オーストリア・ハンガリー二重帝国の成立に走った。

⑵　普仏戦争とドイツ帝国の成立

次に起こったことは、フランスとの戦争とドイツ帝国の成立である。

フランスとの戦争の直接のきっかけは、有名なエムス電報事件である。ことの始まりは、スペイン国王継承問題で、ホーエンツォレルン家の一族ジグマリンゲン家の一員がその候補になったが、一族の長であるヴィルヘルムⅠ世は反対した。ビスマルクもスペインに対するフランスの特別の感情を配慮して反対した。ところが、1870年7月初めバート・エムス（著名なドイツの温泉地）で休暇を過ごしていたヴィルヘルムⅠ世に散歩途上で会った在プロイセン・フランス大使は、この件を再確認しようとした。国王からの電報で知らせを受けたビスマルクは、新聞に、この電報を短縮して「国王は二度とフランス大使と会わない、言いたいことは副官に伝える」と公表した。フランスはこの報道に激怒し、プロイセンに宣戦を布告した。当時のフランスとプロイセンの緊迫した関係には実は次のような事情もあった。1866年の普墺戦争に於いてフランスのナポレオンⅢ世は、プロイセンが劣勢である、との判断から、戦争になったら仲介し、その褒美にライン左岸を得ようとしていた。此の算段が上手くいかなかったため、フランスの中には「サドワ―ケーニヒグレーツのフランス名―に関するプロイセンへの復讐」感情があったという。

普仏戦争はプロイセンの勝利に終わった。この結果、プロイセンはフランスから、エルザス・ロレーヌ（ドイツ名アルザス・ロートリンゲン）を割譲させ、更にヴェルサイユ宮殿鏡の間でドイツ帝国成立の宣言（1871年1月18日）を行ったのである。これについては、裏話がある。ヴィルヘルムⅠ世は最後の日まで、ドイツ帝国皇帝に就くことに抵抗した。プロイセン王国が帝国の陰にかすむことを恐れてのことである。バーデン公の協力（バイエルン国王のルードヴィッヒⅡ世からはワーグナーに入れ込む資金をプロイセンが提供することによって協力を得たようである）でしぶしぶヴィルヘルムⅠ世はドイツ皇帝に就任した。

ところで、ビスマルクはアルザス・ロートリンゲンの獲得に必ずしも乗り気でなかったとも言われている。軍部は戦争の最後の段階でビスマルクに十分な相談をせず、南ドイツを防衛するためにシュトラスブルク、メッツが必要だとしてアルザス・ロートリンゲンを獲得した。しかしビスマルクは、1871年8月、フランス臨時代理大使に対し「長続きする平和のためを思うと、我々はアルザス・ロートリンゲンを取るという間違いを犯した」と語っており、事実、それ以降ビスマルクはフランスがドイツに復讐する連合を阻止せんとすることに一大精力を注ぐことになる。特に、フランスとロシアが連合することによってドイツが二正面作戦を強いられることを阻止しようとしたのだった。

（次号に続く）

クラシックコンサートのスポンサーを募集しています！

2015年2～3月に来日するオーケストラ公演を活用して、
企業の価値や魅力をアピールしませんか？
スポンサーになっていただくと、コンサートのチラシ、パンフレットの
広告スペースやプレミアムチケットのご提供はもちろん、
アーティストを交えた豪華なパーティでお得意様をおもてなしすることもできます。

詳しい情報は、ジャパン・アーツへお問合わせください。
株式会社ジャパン・アーツ　企画推進部
〒150-8905　東京都渋谷区渋谷2-1-6
TEL03-3499-7720
sponsor@japanarts.co.jp
http://www.japanarts.co.jp/
JAPAN ARTS ジャパン・アーツ

ドイツが誇る2つの名門オーケストラが、あなたの企業のイメージアップに貢献します！

音楽芸術の極みーまさに頂点の響き
クリスティアン・ティーレマン指揮
ドレスデン国立歌劇場管弦楽団
2015年2月23日［月］19:00開演
R.シュトラウス：「英雄の生涯」　他
2月24日［火］19:00開演
ブルックナー：交響曲第9番　他
会場：両日ともサントリーホール（赤坂）

現代の伝説ー円熟の名コンビ
マレク・ヤノフスキ指揮
ベルリン放送交響楽団
2015年3月16日［月］19:00開演
シベリウス：ヴァイオリン協奏曲
ブラームス：交響曲第1番　他
フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
3月18日［水］19:00開演
ブルックナー：交響曲第8番
会場：両日ともサントリーホール（赤坂）

黄金の琥珀に純白の泡 ～ Vol.8 ライン川のライバル＜後篇＞～

Das goldgelbe kühle Nass mit dem schneeweißem Schaum

文／松沢 幸一
Dr. Koichi Matsuzawa

ドイツで最も経済力を持つノルトライン・ヴェストファーレン州の首都デュッセルドルフはラインが大きく蛇行するところに開けた街である。ルール重工業地帯に近く、気候が温和、交通の便も良いので、第２次大戦後に州都になると急速な発展を遂げた。日本企業も数多く進出し、5000 人を超える日本人が居住している。

デュッセルドルフ名物の一つはアルトビールである。アルト（alt）は、「古い」、「年とった」などを意味している。英国のエールやケルシュなどと同様、中世からあった上面発酵ビールの一つであり、19 世紀になって拡がった下面発酵ビールと区別するためにアルトビールと名付けられたという。このビールの特徴を際立たせているのは、濃い赤銅色～黒褐色の外観と、苦み・渋みが効いた辛口の味である。日本で一般に使われているコップと同じような形のグラス（容量は 200ml）で飲まれる。

アルトビールはニーダーライン地方でも造られており、大手メーカーも数社ある。しかし、デュッセルドルフのアルトビールを世界的に有名にしたのは、何と言っても市内アルトシュタット（古い街）地区にある地ビール醸造所であろう。アルトシュタットは展望が素晴らしいライン河岸に近いため、飲食客だけでなく散歩の人や家族連れが多く、独特の雰囲気、魅力を持っている。ここに、シューマッハー（1838 年創業で一番古い）をはじめ、ツム・シュルッセル、イム・フュクスヒェンなどが店を構え、それぞれ個性あるアルトビールを出している。

その中で私のお気に入りは、ツム・ユーリゲ（ごつい人、変わり者の意味）である。一番苦くて、コクがあり、色も濃い。1862 年の創業で、シュニッツラー家の家業として営まれている。私はデュッセルドルフに 1996 年から５年間住んだが、お客や友人が来ると決まってここに案内した。オーナーのヨーゼフ・シュニッツラー氏に依頼し、醸造所内を見学したことも幾度かあった。

ツム・ユーリゲ前の石畳舗道はいつも人だかりである。そこで立ち飲みするのが馴染み客のスタイルなのだ。同じ舗道の一角には、仕込みを終えたばかりのビール粕が湯気を立てて積み上げられる。アルトビールの味と共に思い出す懐かしい風景である。

（雑誌「たる」2014 年２月号より転載）

Die Düsseldorfer Altstadtkneipe „Zum Uerige“
an einem schönen Samstagnachmittag im Mai 2011
週末のツム・ユーリゲ前の風景

Vol.8: Rivalen am Rhein (Teil 3)

Panoramabild von Düsseldorf
ライン河畔から見たデュッセルドルフ
Dietmar Meinert / pixelio.de

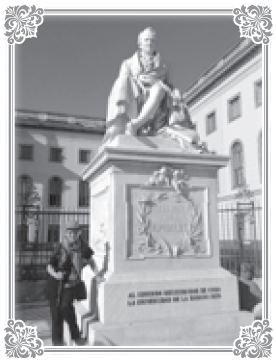
Die Stadt Düsseldorf im Bundesland Nordrhein-Westfalen, welches in Deutschland das wirtschaftlich stärkste ist, ist dort entstanden, wo der Rhein ausladende Kurven bezeichnet. Nahe des Ruhrgebiets mit seiner Schwerindustrie, mit mildem Klima und einer guten Verkehrsanbindung ist die Stadt nach dem 2. Weltkrieg Landeshauptstadt geworden und konnte sich schnell entwickeln. Auch japanische Firmen expandierten in großer Zahl und es leben dort mehr als 5000 Japaner.

Eine Düsseldorfer Spezialität ist das Altbier. アルトbedeutet „alt“ oder „in die Jahre gekommen“. Ähnlich dem englischen Ale oder dem Kölsch, ist es ein obergäriges Bier, das seit dem Mittelalter existiert. Um es vom im 19. Jh. aufgekommenen untergärigen Bier zu unterschieden, bekam es den Namen Altbier. Das Einzigartige an diesem Bier ist seine starke, von bronzen bis ins schwarzbraune gehende Farbe und sein herber und bitterer Geschmack. Es wird aus einem 200ml Glas getrunken, das dem in Japan gewöhnlich verwendeten Trinkglas ähnelt.

Altbier wird auch am Niederrhein produziert und es gibt einige große Hersteller. Aber, dass das Düsseldorfer Altbier auch weltweit berühmt geworden ist, liegt zweifellos an den Hausbrauereien der Altstadt. Die Altstadt besitzt eine einzigartige Atmosphäre und Anziehungskraft, da sie nah am Rheinufer liegt, welches einen einmaligen Ausblick bietet. Dadurch finden sich hier nicht nur Gäste ein, die wegen des leiblichen Wohls gekommen sind, sondern auch zahlreiche Spaziergänger und Familien. Angefangen mit der Brauerei „Schumacher“ (gegründet im Jahre 1838 und damit die älteste), gibt es hier „Zum Schlüssel“, „Im Füchschen“ und andere Hausbrauereien, welche jede für sich einzigartige Altbiere produziert.

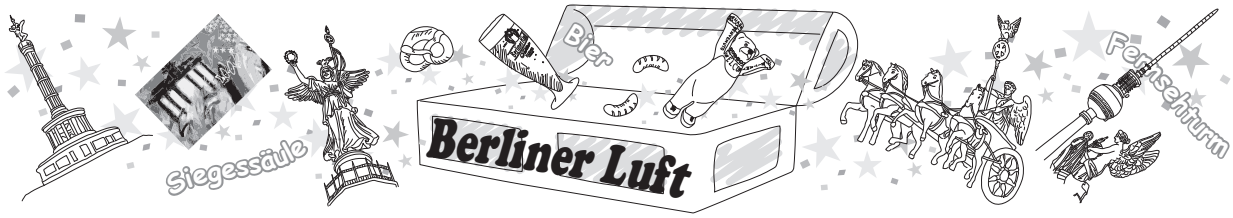
Unter diesen ist „Zum Uerige“ (Bedeutung: grober Mensch oder Querkopf) mein Lieblingsbier. Es ist das Bitterste, hat einen kräftigen Geschmack und eine starke Farbe. 1862 gegründet, betrieb die Familie Schnitzler die Brauerei als Familienbetrieb. Ich lebte von 1996 an fünf Jahre in Düsseldorf und führte meine Gäste und Freunde immer dorthin. Auf meine Bitte hin hat der Besitzer Joseph Schnitzler uns mehrmals sogar die Brausstätte gezeigt. Die Straße vor dem „Zum Uerige“ ist stets voller Menschen. Denn dort ist es Art und Sitte der Stammkunden stehend zu trinken. An der Ecke dieser Straße ist das unmittelbar nach Ende der Sudhausarbeit übriggebliebene Biertreber dampfend angehäuft. Wenn ich Altbier trinke, weckt der Geschmack in mir immer die Erinnerungen an diese liebgewonnene Szenerie.

Wilhelm und Alexander von Humboldt



Leicht zu übersehen ist die Humboldt-Universität zu Berlin Unter den Linden nicht. Die überlebensgroßen Denkmäler am Haupteingang zeigen Wilhelm von Humboldt (1767-1835) mit einem aufgeschlagenen Buch und Alexander von Humboldt (1769 -1859) mit einem Globus hinter seinem linken Arm.
König Friedrich Wilhelm III. ließ das Prinz Heinrich Palais, auf Bitten von Wilhelm von Humboldt, 1809 als Universität einrichten. Es war eine Krisenzeit, Preußen lag nach den Siegen Napoleons 1806 bei Jena und Auerstedt militärisch und moralisch am Boden und war reif für Reformen, auch im Bildungswesen, so dass Wilhelm von Humboldt erreichte, dem armen Volk die gleiche Schulbildung mit dem Übergang zur Universität zu ermöglichen wie anderen Volksschichten.
Sein Reformwerk beinhaltete Bildung auf dem Geist der Aufklärung und Antike und Einheit von Forschung und Lehre. Der Lehrbetrieb wurde 1810 aufgenommen.
Diese vorbildliche Berliner Universität hieß ab 1828 Friedrich-Wilhelms-Universität, wurde im 2. Weltkrieg zerstört und trägt, wieder aufgebaut, seit 1949 den Namen Humboldt-Universität. Humboldt selbst kostete der kompromisslose Einsatz die Stellung, sodass er sich als Sprachwissenschaftler zurückzog und weiterhin die Grundlagen der Grammatik von vielen europäischen Ländern, Nord-, Mittel- und Südamerika und mehreren ozeanischen Inseln schuf.
Alexander von Humboldt (1769-1859), als Naturwissenschaftler der letzte Universalwissenschaftler, litt als Kind darunter, dass seine naturwissenschaftliche Begabung nicht erkannt wurde.
So versagte er zunächst, fand aber rechtzeitig in Botanik als Mentor Carl Ludwig Wildenow und als Idol den Weltumsegler Georg Foster.
Naturwissenschaftliche Disziplin und das Teamwork mit Experten machten seine amerikanische Entdeckungsreise von 1799-1804 erfolgreich: Wie in Venezuela die Entdeckung des Orinoko mit Verbindung zum Amazonas und in Ecuador sein Aufbruch zum Chimborazo. Die russisch-sibirische Expedition 1829 brachte mineralogische Erkenntnisse und einen großen Diamanten.
Im nationalsozialistischen und kommunistischen Regime verlor diese Universität ihre Ideale. Möge das nie wieder geschehen.

Dr. Angelika Hecker, Mitglied der DJG Berlin/ Fachärztin für Neuropädiatrie und Neurologie i.R., jetzt Gasthörerin an der Freien Universität Berlin



ヴィルヘルム・フォン・フンボルトとアレクサンダー・フォン・フンボルト

ウンターデンリンデンで、ベルリンフンボルト大学を見過ごしてしまうことはそうはないでしょう。正門の脇の等身大よりも大きな記念像は、開いた本を持ったヴィルヘルム・フォン・フンボルト（Wilhelm von Humboldt ／ 1767 ～ 1835）と、左腕の下に地球儀を携えたアレクサンダー・フォン・フンボルト（Alexander von Humboldt ／ 1769 ～ 1859）です。

フリードリヒ・ヴィルヘルム 3 世はヴィルヘルム・フォン・フンボルトの願いを聞き入れ、ハインリヒ王子に 1809 年に大学としての宮殿を建てさせました。当時は国家存亡の時代であり、プロイセンは 1806 年のイエナ・アウエルシュタットの戦いでナポレオンが勝利したのち、軍事的・精神的に地に堕ち、改革が教育制度においても必須となっていました。したがってヴィルヘルム・フォン・フンボルトは、貧しい民衆も他の階層の民衆と同様に大学への進学を伴った教育を受けられるようにしたのです。

彼の改革事業の内容は、啓蒙と古代の精神に基づいた教育と、研究と教鞭の一体化でした。1810 年からは授業が組み込まれました。

この模範的なベルリンの大学は 1828 年よりフリードリヒ・ヴィルヘルム大学と称し、第二次世界大戦で破壊されたのち再建され、1949 年からはフンボルト大学という名称となっています。フンボルト自身の姿勢は妥協を許さないものであり、その結果職を辞さなければならなくなりました。彼は言語学者として身を引き、引き続き多くのヨーロッパの国々や北・中・南アメリカ、そして数々のオセアニアの島々の文法の基礎を構築しました。

アレクサンダー・フォン・フンボルトは、自然科学者としては最後の万能の学者であり、子供の頃、自身の自然科学的な素質を周囲に認識してもらえず苦しみました。

このように彼は当初つまずきましたが、時を違えず植物学の分野で指導教官のカール・ルートヴィヒ・ヴィルデノウに出会い、また世界を航海した航海士のゲオルク・フォルスタに憧れを抱くようになりました。自然科学的な規律と専門家たちとのチームワークによって、彼のアメリカでの 1799 年から 1804 年にわたる探検は成功を収めます―ベネズエラでの、アマゾンとつながるオリノコ川の発見や、エクアドルでのチンボラソ山への登頂の試みのように。1829 年のロシア・シベリアへの探検は、鉱物学的知識と大量のダイアモンドをもたらしました。

しかしながら、国家社会主義体制と共産主義体制の下では、この大学はその理想を失ってしまいました…このようなことは二度と起こってほしくありません。

Dr. アンゲリカ・ヘッカー
ベルリン独日協会会員、元小児神経科・神経科専門医、ベルリン自由大学聴講生
（翻訳：根岸勇太）

- Alexander は Alexanderplatz 方面を向いているし、Wilhelm は Wilhelmsstraße に向いています。一発で兄弟を区別するには、これを覚えていれば OK ！です
- フンボルト大学の一学期の学費は 290.53 ユーロです。入学してみてはいかがでしょうか？ (^^ ♪
- 自慢話になりますが、なんとノーベル受賞者の 29 人がフンボルト大学で勉強しました。リストはこちらにあります：https://www.hu-berlin.de/ueberblick/geschichte/standardseite/nobelpreise
- Humboldt 兄弟の理念、平等主義と人道主義を強調するために 1949 年より、現在の名称に変わりました。
- ベルリンの一番古い病院「シャリテ」、森鷗外記念館などもフンボルト大学に属しています。
- 1908 年に Agnes von Zahn-Harnack は初めてのフンボルト女子大生として入学しました。それを記念するために、100 年後の 2008 年に導入された大学内のオンラインプラットフォームは AGNES と名乗られました。
- 因みにフンボルト大学と東海大学は 80 年代から交換留学のプログラムを続けました。資本主義と共産主義の壁があったにも関わらず！

豆知識：タベア・カウフ

2014 年度全国日独協会連合会年次総会

本年度の全国日独協会連合会総会は、4 月 21 日㈪午前 10 時より、青山の東京ドイツ文化センター 1 階大ホールにて古森重隆連合会会長とフォン・ベアテルン新駐日ドイツ連邦共和国大使以下、昨年と同じく正会員協会 29 協会役員と事務局関係者等合わせて 80 名余りで開催された。

古森会長の歓迎挨拶、次いで来賓のフォン・ベアテルン大使の挨拶で始まり、古森会長が議長となって、決議事項 7 項目の審議に入り、全て賛成多数により承認された。なお、開会に先立ち、会員総数 60、内議決権を有する会員 45、出席会員 29、委任状提出 14、回答なし 2 で、議決権を保有する会員が委任状を含めて 43 と過半数をはるかに越えていることが事務局より発表された。

（決議事項）

議案 1．本年度の新規加盟申請協会は、宮崎日独協会。昨年、加盟申請を予定していたが、多忙の為 1 年遅れたもので、同協会の森専務理事が設立趣旨を述べられ、加盟が承認された。

議案 2．連合会一部役員の交代と全役員の選任に関しては、

- 西日本日独協会の会長が根本氏から元会長の池田紘一氏に交代。
- 仙台日独協会の藤田宙靖（ときやす）会長は、他の連合会副会長と任期を統一すべく今総会で一旦辞任。

などの後、古森会長以下、全員の再選が決議された。詳細は、以下の通り。（敬称略）

新役員（会　　長）公益財団法人日独協会　会　長　古森重隆
（会長代行）公益財団法人日独協会　副会長　木村敬三
（副 会 長）北海道日独協会会長　鈴木重統
仙台日独協会会長　藤田宙靖
とちぎ日独協会会長　橋本　孝
ぐんま日独協会会長　鈴木克彬
豊橋日独協会会長　神野信郎
名古屋日独協会会長　山本纊子
神戸日独協会会長　家継　恒
西日本日独協会会長　池田紘一
（監　　事）千葉県日独協会会長　宗宮好和
茨城県日独文化協会理事　瀬下　功

議案 3．2013 年度決算については、2 協会が年会費 2 万円に対して、各々 1 万円、5 千円の納入となったが、正会員として扱うことで承認された。前期繰越金と他の収入を合わせて 1,663,426 円、一方で支出は木村会長代行が独日協会連合会総会に、日本側代表として出席、現状報告の出張旅費補助金 100,000 円、独日協会連合会のフォンドラン会長来日時の食事代、これに昨年同様の公益財団法人日独協会への事務局経費 500,000 円振替により、合計 650,607 円、従い次期繰越金 1,012,819 円となることが承認された。

議案 4．昨年の札幌における連合会創立 25 周年記念総会・式典では、2 日目の記念式典に対してホテル会場代、記念看板代などが嵩み、各協会の参加費 1 万円では不足して、主管の北海道日独協会は、20 万円強の赤字となったが、前以て赤字対策を総会で決めておかなかった為に、北海道日独協会内部での処理を強いられる結果となった。そこで、今後はこのような連合会としての記念行事開催による資金不足を避けるべく、年会費の余剰が生じる場合には、5 万円を限度として記念事業準備金を積み立てることが提案され、今年は 5 万円を積み立てることが承認された。なお、昨年の北海道日独協会の赤字に対して、一部協会より、「昨年の記念式典は思い出に残るもので、赤字に対して補助金を考慮すべき。」との動議が出され、副会長会議で再検討することで承認された。

議案 5．独日協会連合会のフォンドラン会長から当連合会宛に独日協会連合会創立 50 周年記念誌への寄稿依頼があり、これに応えるべく、黒川剛当協会理事と橋本孝とちぎ日独協会会長がそれぞれ 15 ページ近くの論文を日独両語で作成して送付。これに対しては、ドイツ側から原稿料の支払いはなかったので、全国日独協会連合会として、執筆料としてそれぞれ 5 万円を支払うことを副会長会議にて決め、総会に提案し承認された。

議案 6．今年で 8 回目となる、連合会「若手会員の集い」は 3 月 21 日に開催し、前半はこれまで通りの会議（各協会の活動報告と質疑応答）を行い、後半ではドイツ側に存在する「独日青少年協会」という独立した団体に対応できる組織（仮称：日独青少年協会）を今後立ち上げることを、当協会タベア職員が提案。とりあえず、①会員は各地日独協会会員とする。②会費は徴収しない。③連絡はすべてインターネットにて行う。④具体的な運営に関しては、会員と相談しながら行っていくこととした。

議案 7．来年度の総会開催地として、いわき日独協会が立候補。他に開催を希望する協会がなく、いわきの「スパリゾート・ハワイアンズ」での開催を決定。

（報告事項）

1．日独若者交流促進資金の使用状況は、4 月 21 日現在の残高が 2,506,125 円との報告あり。

2．独日協会連合会創立 50 周年記念総会参加訪独旅行の件では、現在の参加申し込みが 20 名足らずで、引き続き申し込みを受け付けるとの報告があった。

以上で、審議事項を終了。午後からは、各地日独協会の活動報告に移り、北から南への順で日独交流・若手会員対策などを中心として報告をしていただいた。この中では西日本日独協会池田会長から、「これまでの組織を一新して、役員の若返りと、若手会員対策として、『青年部』を立ち上げた」ことが報告されて注目を集めた。なお、18:00 からの懇親会には、フォン・ベアテルン大使ご夫妻、アウアー公使、DAAD のフィンケン所長等にご参加いただき、和やかな交流が行われた。

（参加協会）

北海道日独協会、仙台日独協会、新潟日独協会、北陸日独協会、石川日独協会、長野県日独協会、いわき日独協会、茨城県日独文化協会、茨城日独協会、とちぎ日独協会、ぐんま日独協会、千葉県日独協会、蕨・独リンデン日独協会、横浜日独協会、湘南日独協会、岐阜日独協会、名古屋日独協会、豊橋日独協会、一般社団法人大阪日独協会、奈良日独協会、三重日独協会、和歌山日独協会、（特定非営利活動法人）神戸日独協会、松江日独協会、広島日独協会、香川日独協会、西日本日独協会、熊本日独協会、宮崎日独協会（新規加盟）、公益財団法人日独協会

以上

Die Hauptversammlung des Verbandes der JDGen 2014

Die diesjährige Hauptversammlung des Verbandes der Japanisch-Deutschen Gesellschaften wurde am Montag, den 21. April ab 10 Uhr im Europasaal des Goethe-Institut Tokyos veranstaltet. Neben dem Verbandspräsidenten Herrn Komori und dem neuen deutschen Botschafter Herrn Dr. von Werthern sowie Büroangestellten nahmen ingesamt mehr als 80 Vertreter von 29 Gesellschaften teil.
Die Versammlung begann zunächst mit einem Grußwort von Herrn Komori und dem Ehrengast Herrn Botschafter Dr. von Werthern. Anschließend übernahm Herr Komori das Wort und es wurde über sieben Punkte abgestimmt, welche jeweils durch eine Mehrheit bestätigt wurden.
Bei der Eröffnung gab es von insgesamt 60 Gesellschaften 45 Gesellschaften mit Stimmrecht, von denen 29 Gesellschaften anwesend waren, 14 Vollmachten ausgestellt hatten und zwei nicht geantworten hatten. Anwesende Gesellschaften und solche, die Vollmachten ausgestellt hatten zusammengerechnet, war mit 43 Gesellschaften eine Mehrheit vorhanden.

(Resolutionspunkte)

1. Dieses Jahr wurde als neues Mitglied die JDG Miyasaki in den Verband mit aufgenommen. Eigentlich war dies schon für letztes Jahr geplant gewesen, doch die Vorbereitungen hatten sich um ein Jahr verzögert. Das Geschäftsführende Vorstandsmitglied Herr Mori trug die Beweggründe für den Eintritt vor und die Aufnahme wurde bestätigt.
2. Es gab z.T. Wechsel von Amtsinhabern und die Bestätigung aller Amtsinhaber.
   - Bei der JDG Westjapan löste der (ehemalige Präsident) Herr Koichi Ikeda den Präsidenten Herrn Nemoto ab.
   - Herr Tokiyasu Fujita, Präsident der JDG Sendai, legte bei dieser Generalversammlung kurzzeitig sein Amt nieder, um es den anderen Vize-Präsidenten gleich zu tun. Im Anschluss wurden alle Amtsinhaber wiedergewählt. Die neuen Ämter lauten wie folgt:

(Präsident) Shigetaka Komori (JDG Tokyo, Präsident)
(Stellv. Präsident) Keizo Kimura (JDG Tokyo, Vize-Präsident)
(Vize-Präsidenten) Shigenori Suzuki (JDG Hokkaido, Präsident), Tokiyasu Fujita (JDG Sendai, Präsident), Takashi Hashimoto (JDG Tochigi, Präsident), Katsuaki Suzuki (JDG Gunma, Präsident), Nobuo Kamino (JDG Toyohashi, Präsident), Hiroko Yamamoto (JDG Nagoya, Präsidentin), Hisashi Ietsugu (JDG Kobe, Präsident), Koichi Ikeda (JDG Westjapan, Präsident)
(Beirat) Yoshikazu Somiya (JDG Chiba-ken, Präsident), Isao Seshimo (JDG Ibaraki (Kultur), Präsident)

3. Was den Rechnungsbericht des Verbands für das Fiskaljahr 2013 angeht, hat eine Gesellschaft nur 10.000 Yen bezahlt und eine nur 5.000 Yen, doch sie wurden als vollwertige Mitglieder angekannt. Zusammen mit anderen Einnahmen kam man auf eine Summe von 1.663.426 Yen. Auf der anderen Seite gab es Ausgaben in Höhe von 650.607 Yen. Diese kamen unter anderem zustande durch einen Fahrtkostenzuschuss in Höhe von 100.000 Yen für Herrn Kimura, der als Vertreter der japanischen Seite in Deutschland an der Hauptversammlung des VDJG teilnahm und über die Situation des VJDG informierte, sowie die Kosten für einen Restaurantbesuch beim Besuch des VDJG-Präsidenten Herrn Dr. Vondran. Weiterhin wurden die auf 500.000 Yen geschätzten laufenden Kosten für das Verbandsbüro an die JDG Tokyo überwiesen, so dass der verbleibende Betrag für dieses Fiskaljahr 650.607 Yen beträgt. Für das nächste Fiskaljahr steht also eine Summe von 1.012.819 Yen zur Verfügung.

(Für das nächste Fiskaljahr wird auf der Vizepräsidentenversammlung entschieden, deren Datum noch nicht feststeht.)

4. Letztes Jahr wurde die Hauptversammlung zum 25-jährigen Bestehen des Verbandes in Sapporo abgehalten. Für die Raumnutzungsgebühren der Jubiläumsveranstaltung am zweiten Tag im Hotel und die Druckkosten für das Plakat hat der Teilnahmebeitrag von 10.000 Yen pro Gesellschaft nicht ausgereicht, so dass der ausrichtenden JDG Hokkaido rote Zahlen in Höhe von 200.000 Yen entstanden sind. Da jedoch im Voraus nicht festgelegt wurde, wie in einem solchen Fall zu verfahren sei, wurde beschlossen, dass die JDG Hokkaido dieses Problem alleine klären muss. An dieser Stelle wurde entschieden, einen Reservefond mit einer Höchstgrenze von 50.000 Yen einzurichten, um solche finanziellen Lücken bei Jubiläumsfeierlichkeiten künftig zu vermeiden. Von einigen teilnehmenden Gesellschaften hieß es, ob man nicht noch einmal überdenken sollte, die JDG Hokkaido finanziell zu unterstützen, da die Jubiläumsfeierlichkeiten jedem in guter Erinnerung geblieben sind. Daher wurde festgelegt, die Entscheidung bei der Vizepräsidentenversammlung noch einmal zu besprechen.
5. Der Verband wurde zum 50. Jubiläum des Bestehens des VDJG vom Präsidenten Herrn Dr. Vondran um eine Jubiläumsfestschrift gebeten. Herr Tsuyoshi Kurokawa, Vorstandsmitglied der JDG Tokyo, und Herr Takashi Hashimoto, Präsident der JDG Tochigi haben hierfür jeweils 15 Seiten auf japanisch und deutsch verfasst. Da von deutscher Seite her für diese Aufsätze nichts gezahlt wurden, wurde auf der Vizepräsidentenversammlung beschlossen, vom Verband aus jeweils 50.000 Yen zu bezahlen. Diesem Vorschlag wurde auf der Hauptversammlung zugestimmt.
6. Am 21. März wurde zum 8. Mal die Hauptversammlung der Jungmitglieder abgehalten. Der erste Teil lief ähnlich wie in den früheren Jahren ab (Berichte über die jeweiligen Vereinsaktivitäten, sowie Zeit für Fragen). Im zweiten Teil wurde von Frau Tabea Kauf, Angestellte bei der JDG Tokyo, vorgeschlagen, einen unabhängigen Verein zu gründen, welcher der auf deutscher Seite existierenden Deutsch-Japanischen Jugendgesellschaft entspricht (vorläufiger Name: Japanisch-Deutsche Jugendgesellschaft). (1) Mitglieder können nur Mitglieder der jeweiligen JDGen werden. (2) Es gibt keine Mitgliedsbeiträge. (3) Die Kommunikation erfolgt hauptsächlich übers Internet. (4) Über die Details wird in Zukunft gemeinsam beraten.
7. Die JDG Iwaki hat sich als Veranstalter der Hauptversammlung im nächsten Jahr angeboten. Es gab keine weiteren Bewerber und so wurde der Austragungsort auf das in Iwaki gelegene „Spa Resort Hawaiians“ festgelegt.

(Zu Berichtendes)

1. Die verbleibende Summe im Fonds zur Förderung des Jugendaustauschs belief sich zum 21. April auf 2.506.125 Yen.
2. Was die Deutschlandreise zur Generalversammlung des VDJG betrifft, ist die Teilnehmerzahl von 20 Personen noch nicht erreicht, weshalb weiterhin Anmeldungen entgegen genommen werden.

Nach dem Mittagessen verließ Herr Komori aufgrund anderer Verpflichtungen die Versammlung.
Am Nachmittag berichteten die einzelnen JDGen (in der Reihenfolgen von Norden nach Süden) über ihre Aktivitäten, mit besonderem Augenmerk auf die Jugendaktivitäten. Hier stach die JDG Westjapan besonders hervor, denn der Präsident Herr Ikeda berichtete von der Erneuerung der bisherigen Vereinsstruktur, der Verjüngung des Vorstands und der Errichtung einer „jungen Gemeinschaft“.
Ab 18:00 gab es eine gesellige Zusammenkunft, bei der das Botschafterehepaar Dr. von Werthern, der Gesandte Herr Dr. Auer und Herr Dr. Finken vom DAAD teilnahmen, so dass es eine lebhafte Veranstaltung wurde.

Teilnehmende JDGen:

Hokkaido, Sendai, Ibaraki-ken, Ibaraki, Tochigi, Gunma, Warabi-Linden, Chiba, Shonan, Hokuriku, Nagano-ken, Niigata, Ishikawa, Gifu, Toyohashi, Nagoya, Osaka, Kobe, Nara, Mie, Wakayama, Hiroshima, Kagawa, Westjapan, Kumamoto, Yokohama, Iwaki, Matsue, Miyazaki, Tokyo

講演記録　ドイツ語圏文化セミナー 64

「いまどき外国語学習法」

（2014 年 3 月 27 日　於・日独協会）

ラース・バウアー（千葉大学講師・翻訳家）

今日は、「今どき」ということで現代にあった、または現代の技術などを取り入れた学習法の一例についてお話したい。皆さんそれぞれ自分の学習法があるだろうし、（何が正しいと）一概に言えるものでもないけれど、私自身が日本語を学習する中で経験したり試行錯誤の末に考えた方法論、そしてそれをドイツ語学習に適用したものを紹介しようと思う。

自己紹介

私はドイツのチューリンゲン州のハイルバートハイムシュタットというところに生まれた。ここで高校を卒業し、老人介護施設で兵役代替役務を終え、2007 年ライプツィヒ大学に進学と同時に日本語の学習を始めた。2009 年からは本気で日本語に取り組み始め 2011 年に日本語能力試験の N1（前の一級）を受けた。ライプツィヒ大学では日本学の学部・大学院を卒業。来日は今が 2 回目で、先月で合計 2 年間の滞在になった。現在はドイツ語講師をしながら、ゲームや取扱説明書などの翻訳の仕事をしているが、今のところドイツに帰るつもりはない。

失敗を恐れないこと

それほど『今どき』ではないが、非常に大切でありながら非常に難しいことだと思う。別に新しい概念でもなく私が考えだしたことでもないが。失敗を恐れると何も進まなくなる。特に外国語学習では発言したり使ってみたりしないと分からないことが多い。私も最初のころは失敗が怖くて、そのために勉強が進まなかった。本気で日本語に取り組むようになってからも散々間違った言葉を使ったり失礼なことを言ってしまったりしたと思う。例えばお店に入って「何名様ですか？」と聞かれて「4 名様です」と答えてしまったり「牛乳」と言おうと思って「はい、乳牛を買ってきます」と言ってしまったり（笑）。しかし間違いと失敗は当然のことで恥じることではないと思う。間違えてしまったことは覚えやすいので、失敗から学ぶというのは外国語を学ぶ上での大切な「コツ」だと言える。

できたものはできるとし、できなかったものを重視

一回できたことは、とりあえずできたものとして、できなかったことに集中すると力を注ぐ範囲が狭くなるので楽になる。基本を間違えても恥ではなく、基本の項目を復習し、上達するチャンスだと考える。「間違えること」は力を入れるべき項目が見つかりやすくなるということなのだから。失敗を恐れない姿勢が身に付いてくると、今度は「あえて失敗する」こともある。つまり覚えたての言葉の使いわけが分からない時に、とりあえず使ってみて相手の反応をみることによって自分の想像した意味で合っていたかどうかわかったりする。その時に使い慣れた言葉で再度確認すると良いかもしれない。

自分の力より多少難しいものに挑戦する

自学自習で使うメディアや会話において、とても有益な方法だと思う。具体的には

1．自分が詳しい分野についての短くて易しい文章、初級の教材や子ども向けのニュース。
2．同じものの日本語版とドイツ語版を比べながら挑戦する。映画、本、ニュース記事など。ハリーポッターが好きだったら何カ国語でもできる。
3．内容を知っている話のドイツ語版に挑戦する。日本の童話など。
4．知らない内容の、自分のレベルよりちょっと上のものに挑戦する。
5．興味のある分野のまだ知らない、ある程度難しいものに挑戦する。

という順番で挑戦すると良いのではないか。

メモをとること

非常にシンプルだが非常に役に立つ。気になることはすべてメモする。多すぎると感じるほどメモすると良いと思う。単語のみではなく疑問も書いたりする。書き方も自由に自分の使いやすいようにすればいい。できればメモ全体をドイツ語づくめにするといい。「Was bedeutet?（どういう意味？）Was ist Unterschied zwischen A und B?（A と B の違いは何？）」のように。紙のメモだけではなくケータイでもスマホでもいい。自分はスマホを弄れない授業中はノートに書く、出先ではスマホに入れておく、という具合に使い分けている。

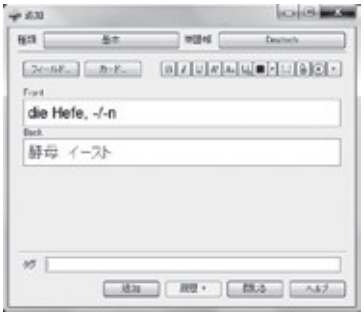
現代技術の利用

スマホが出てきたので、いよいよ現代技術を利用した学習法の話に入りたいと思う。

一番最初に紹介したいのは ANKI というデジタルフラッシュカードのソフト（www.ankisrs.net）。フラッシュカードというのはただ単語を書いて覚えるだけでなく、いわゆる「分散学習」というもの。そこでよく使われるのがライトナーシステム（ドイツの科学者セバンスチャン・ライトナーが考案）で、正解した問題（覚えている項目）は次の箱へ入れられ、次に復習問題として出てくるまでの間隔が長くなる。不正解だった問題は最初の箱に戻される。これによって覚えていないもの、苦手なものが頻繁に出てくる。これを習慣的に続けると、フラッシュカード自体が自分のペースに合ったものになる。覚えたものの箱に入っていても復習問題で一度でも間違えると最初（不正解）の箱に戻されてしまうので、その単語を確実に覚えることになり非常に効率が良いと思う。従来は紙のカードで手書きで作っていたこのフラッシュカードをデジタル化したのが ANKI であり、デジタル化することによって大量のカードを持ち歩く必要がなくなる。

（ANKI の実演）

最初に単語帳を作り、単語を入力する。カードのタイプを一方向（和独のみとか独和のみ）か双方向（和独と独和の両方が出題される）で選ぶことができる。単語を入力する作業自体が勉強になる。関連性の高い単語も同時に入れておくと良い。写真・画像を入れることもできるので説明が難しいものは文の代わりに写真を入れてしまう。音声も入れることができる。タグをつけることもでき、同じタグで関連語を追加できる。使用頻度の低いものは保留にすることもできるし、同じ



ANKI・単語の入力画面

ANKI・フラッシュカード画面

単語をダブって入れてしまっても問題ない。入力した単語は Neu（新規）Lernen（学習中）Wiederholung（復習）の三種類に分類される。3 つ入力すると 6 枚のカードが作成される。学習状態を nochmal（もう一回）gut（普通）einfach（簡単）の三つから選びボタンを押す。それぞれが何分後（何時間後、何日後）に出てくるか設定できる。この入力を続けると、自分専用にカスタマイズされた辞書ができ上がる。

ネット上の辞書

残念なことに無料で使える辞書は大半が和独で、独和にはまともなものはほとんどない。

WADOKU（www.wadoku.de）はユーザーによってどんどん新しい単語が追加されるので非常に充実している。

和独経済辞典（www.wadokukeizai.de）は WADOKU と同じタイプで経済関係の専門用語が対象。

和独大辞典（www.japan.de）は大変素晴らしいがまだ A から I まで

„Sprachlernmethoden von heute“

Lars Bauer, Lektor der Chiba-Universität, Übersetzer

しか出ていない。例文が充実しており、例文の出典も記載されている。

WIKIPEDIA、ウィクショナリーを辞書代わりに使う方法

ウィキペディアの良いところは固有名詞や難しい概念、専門用語なども出ているところ。辞書ではないので本当に信じられる情報なのか確認する必要はあるが、ウィキペディアは一般的に良く使われる表現で書かれているので、どの表現が一番使用頻度が高いか確認できる。画面左側にある言語切り替えによって他の言語でどう表現されるのかも調べられる。

もう一つウィキペディアに付属しているものでウィクショナリー（www.wiktionary.org）がある。これは意味の他に発音や変化形、関連語（同義語、反意語）も見られるので便利。ただ、これもユーザーが作成するものなので確実ではない。確認の手段としてはグーグルの画像検索を使うこともできる。画像を見て、その言葉が本当に自分が探しているものなのか確かめることができる。

例文については「タトエバプロジェクト（www.tatoeba.org）」というサイトがある。あらゆる言語の例文が登録されていて例えばドイツ語の Zug について検索すると 400 件以上の例文がヒットする。緑色の文字のものがサイト運営者によって確認済みのものだが、だいたい良い訳が付けられている。他の言語と比較することもできる。

私の母校のライプツィヒ大学が作っている Wortschatz（www.wortschatz.uni-leipzig.de）というプロジェクトはさらに上級向け。ネット上での使用例が出てくるので、文脈を調べることもできる。関連語との結びつきを示したグラフも面白い。また使用頻度が表示されるので「これはもう死語かな」と心配になった時に確認できる。

似ている単語の違いを知りたい場合はグーグルで Unterschied　A B と入れれば違いが出てくる。例えば、sehen と schauen の違いが知りたいときは Unterschied sehen schauen のように検索窓に入力すればいい。

スマホの利用について

移動時間が長い日本ではスマホが活躍できる。ドイツでは待ち時間が長いが（笑）。スマホはメモを取ることもできるし写真を撮ることもできる。インターネットが使えるので今までにお話ししたサイトも閲覧できる。またアプリを利用することもできる。iPhone やアンドロイドスマホでは既成のドイツ語アプリもたくさんある。ドイツのラジオをインターネットを通じて聴くことができるアプリもある。ドイツ語の電子書籍を読むこともできる。ただし無料で読める本は基本的に古いのでドイツ語も古く難しい。無料の電子書籍は多言語であることが多いのでドイツ語の表現があまり正しくない場合もある。

先ほど紹介した ANKI のアプリもあり、パソコンと同期させることができるのでパソコンでの学習過程をスマホに反映させることができ、スマホで続きをやることができる。スマホ上で新しい単語帳を作ったり復習したりすることもできる。片手で操作できるので電車内でも使えて便利。アプリからウェブサービスの自分のアカウントへ反映させることもできる。ANKI では共有単語帳（他のユーザーが作ってシェアしてくれたもの）をダウンロードすることもできる。外国語学習だけではなく、方程式や専門用語の勉強に使う人もいる。ANKI はガラケー（フューチャーフォン、従来の携帯電話のこと）でも一応使える。

ドイツ語に触れる機会を増やす工夫

インターネットで興味のある話題に触れる時にドイツ語を使ってみてはどうか。自分は料理が好きなので料理のレシピは日本語で見ている。興味のあることにドイツ語を使ってみる。買い物リストや手帳をドイツ語で書いてみるのもいいかもしれない。その時にわからない単語や重要なことは日本語にしてしまってもかまわない。普段使うものの言語をドイツ語に設定してみる。パソコンやカメラなど、身近なものの言語設定をドイツ語にしてみるといい。最初は使い慣れたアプリだけでもいい。家にあるものにドイツ語のラベルを貼る、という手もある。家具や日用品にドイツ語の名前を貼っておくと毎日目にするので意外に頭に入る。自分の家も一時期付箋だらけだった。壁にドイツ語のポスターを貼ったり、ドイツ語の本をトイレに置いておくという手もある。

上級の方法として、日本についてのニュースをドイツ語で読むのもいい。生のドイツ語に触れられるだけでなく、海外から日本がどう見られているかを知ることができる。youtube でドイツ語の動画を探して見てもいい。日独協会の「ドンドンドイツ語」も youtube で見られる。youtube で国の設定をドイツにすると、「youtube で人気・ドイツ」にドイツ語のものがたくさん出てくる。

ドイツに行かなくてもドイツ人と連絡を取れるサイトもいくつかある。lang-8（lang-8.com）は対象言語で書いたものを添削してもらうことができるし、外国人の書いた日本語を添削してあげることもできる。スカイプなどで話す相手を見つけたい時も、このサイトを介して行うと、ナンパ目的ではなく、真面目に語学を勉強したい人を見つけやすいかもしれない。

まとめ

失敗を恐れず積極的に対象言語を使う
自分流のデータベースを作る
自分が良いと思う現代技術を勉強に取り入れる
習慣をつけること
最後は努力（厳しいかもしれないけどやるしかない）

質疑応答

―シュトルムの古い小説を辞書を引きながら読んで楽しくなってしまった。いちいち辞書を引かなくても流れで読んでいけば良い、ということを聞いて試みたけれど単語力がなくて分からない部分が多いが我慢してやる甲斐はあるのだろうか？ラジオも聞いてみたけれど、ほとんど分からなかった。

A．ラジオの Deutsche Welle はニュースだが簡単なドイツ語を使い、ゆっくり話しているので聞きやすいかもしれない。小説の読み方は難しすぎるなら無理してやる必要はない。もちろん、もしもやりたいと思うならゆっくり時間をかけて調べながら最初のページだけでも読むというのも有りだと思う。

―ポッドキャストでドイツのラジオを聞いているけれど、日本のようにリスナーからの投稿が紹介されたりするような番組を見つけられないが、そもそもドイツにはそういう番組はないのか？

A．確かに、ドイツのラジオでは音楽を流すものが多くて日本のトーク番組のようなものはあまりないかもしれない。

―ドイツ語と英語が混ざってしまうのだけど？

A．最近自分もドイツ語があまり話せなくて日本語の単語が先に出てきてしまう。どうしてもメインの言語というのがあるので難しいかもしれない。

―よく使ったサイトは？スピーキングはどうやって鍛えたのか？

A．初級の頃は ANKI と辞書サイト、中級以降はグーグルを使うことが増えた。日本語のサイトでヤフーの知恵袋みたいなところを多く読んだ。読み物は写真がつくと理解しやすいのでドイツのコミックなどもおすすめ。スピーキングについては ANKI の発音の正解を繰り返す、日本人との交流を求めて話をしたりした。繰り返しになるが、言葉の習得にはやはり失敗を怖がらず、恥ずかしがらず、積極的に使って（話して）みることだと思う。

ドイツ留学生活・ラスト１カ月
芹澤 晃（当協会会員）

Nur noch ein Monat bis zum Ende des Austauschjahrs!
Akira Serizawa (Mitglied der JDG)

日独協会の皆様こんにちは。芹澤晃です。早いものでこの投稿を書いている頃、ドイツでの留学生活も残り2か月弱となりました。前回の投稿から、さらにさまざまな経験をすることが出来ました。今日はその中で印象に残ったことをお話ししたいと思います。

２月下旬。僕はドイツに留学している各国々の留学生研修旅行のためにドレスデンに行きました。研修は約1週間、日本、タイ、中国、インドネシア、フランス、イタリア、ブルガリア、グルジア、スウェーデン、デンマーク、メキシコ、ベネズエラ、インド、コロンビアの留学生と過ごしました。研修の内容はドレスデン観光、留学の中間報告、悩みや解決法などです。

観光中でも各国々の文化を発見することができました。

例えば博物館やスタジアムを廻ったのですがどこに行っても南米の留学生がとても陽気。道で歌を歌ったり、はしゃいだり。これも文化だと思いますが、「どこからそんな元気が湧いてくるの?」と僕を含め多くの留学生が圧倒されていました。

僕たちアジア人にもほかの国々では不思議がられることがありました。何だと思いますか?それは写真撮影です。どこを見てもパシャパシャパシャパシャ写真を撮っているアジア人は「どうしてそんなに写真を撮るの?」とよく質問されました。

夜は毎夜が夜中の2時近くまでダンスパーティでした。ここではもちろん南米の方々が主役です。疲れ知らずの彼らは毎晩毎晩先陣を切って踊っていました。パーティの際、日本について様々なことが聞けました。日本の文化に対するイメージはやはり漫画ですね。留学生は高校生ということもあり、「日本のマンガ好きだよ!」と多くの留学生から声をかけられました。その他は漢字。漢字はとてもかっこよく見えるらしく、「僕の名前を漢字で書いて!」と多くの人々から依頼されました。

そして、原発問題。これも多くの留学生が関心を寄せていました。日本で知っている都市を聞くとほとんどが東京か福島を答えていました。

これだけ多くの国々の人々と過ごした1週間はとても新鮮で刺激的でした。

４月の春休み。僕は念願だったベルリンにホスト家族と旅行で行くことができました。

ドイツの首都であるベルリンは、どことなく東京に雰囲気が似ていました。しかし、ベルリンの壁やホロコーストなど近代的な街の中にも戦争や冷戦の歴史がしっかり残っていることに感銘を受けました。

例えばベルリンの壁。現代の街の中でも一部が当時のままに残されています。そこの部分だけが少し違った雰囲気で、冷戦当時の状態のまま、そこの時間が止まっているように僕は感じました。日本では広島の原爆ドームを観たときと同じように感じました。

博物館や資料館もそうですが、街の中を歩く中で当時の歴史の情景を感じることができ、とても印象深かったです。

ベルリンはとても広く、毎日が移動の連続で足が毎夜筋肉痛（若者が情けないですが…）になりましたが、ベルリン名物のカレーソーセージなどの食べ物、ベルリンが誇る博物館等ほとんどの観光地を廻ることが出来ました。

お買い物や食事はもちろんドイツの歴史を肌で感じることができるベルリンに皆さんもぜひ行ってみてください!

さて、先にお伝えした通り、残りの留学生活も2か月弱。近頃一日一日があっという間に過ぎてしまいます。残りの時間も充実して過ごせるように頑張ります。

投稿時6月。そろそろワールドカップが始まります。サッカー大国ドイツでは徐々にその熱が高まってきています。みんなビールを片手にパブリックビューイングで応援することでしょう。この投稿が掲載される頃には、もう優勝は決まっていると思います。どうなっているのでしょうか?

日本対ドイツが実現されれば僕としてはとてもうれしいです。その時僕はどっちを応援するか?う〜ん、なんといっても周りは全員ドイツ人。僕の立場は完全アウェイですからね（笑）

月刊音声教材（無料）
Direkt aus Europa auf deutsch

Nachrichten aus dem Radio, Interviews, Reportagen, ... + Text + Erläuterungen und jeden Monat eine Übungsaufgabe

Hörverständnisübungen (etwa 60') und Formulierungsübungen für die Mittelstufe mit etwa 60 S. Beiheft, bis Nr. 277 für 3 875 Yen, seit Nr. 278 gratis im Internet:

http://aufdeutsch.news.coocan.jp

監修：Heinz Steinberg 当会会員
元東京外国語大学客員教授

（日独協会会員のドイツ語相談も無償）

フランツィスカさんへの手紙
―浅草の大提灯とおいしい天丼―

Liebe Franziska,

wie geht es dir? また大学で BIOLOGIE の勉強に取り組んでいるでしょうか。ときどきは日本で撮った写真を見ているでしょうか。２月下旬の寒い小雨模様の日でしたが、あなたは元気いっぱい、好奇心一杯で私たちのまえに現れました。拙いドイツ語に熱心に耳を傾けてくれることに励まされ、自己紹介などしながら、はじめに向かったさきは浅草橋の駅前にある「人形の久月」。店内でさっそくカメラを取り出したあなたに、初めは撮影禁止といった店員さんでしたが、好奇心に輝く瞳に心動かされたのでしょう。店の奥で撮影させてくれました。今はもう４月。店は五月人形であふれています。あなたに見せてあげたい。

浅草ではまず案内所で町の地図をもらいましたが、ドイツ語版もあり、係の人は「Auf Wiedersehen! 」と挨拶。あなたの目は、大提灯はもちろん、その底の竜の彫り物も見逃しません。その好奇心が私たちにも伝染したのでしょう。みんなでキョロキョロ。どの店も日本の昔を偲ばせる色とりどりの小物であふれ、あなたのカメラも大忙しでしたね。私たちもドイツ語で説明 „Ganbatten“ でしたが „Franziska, hast du verstanden?“

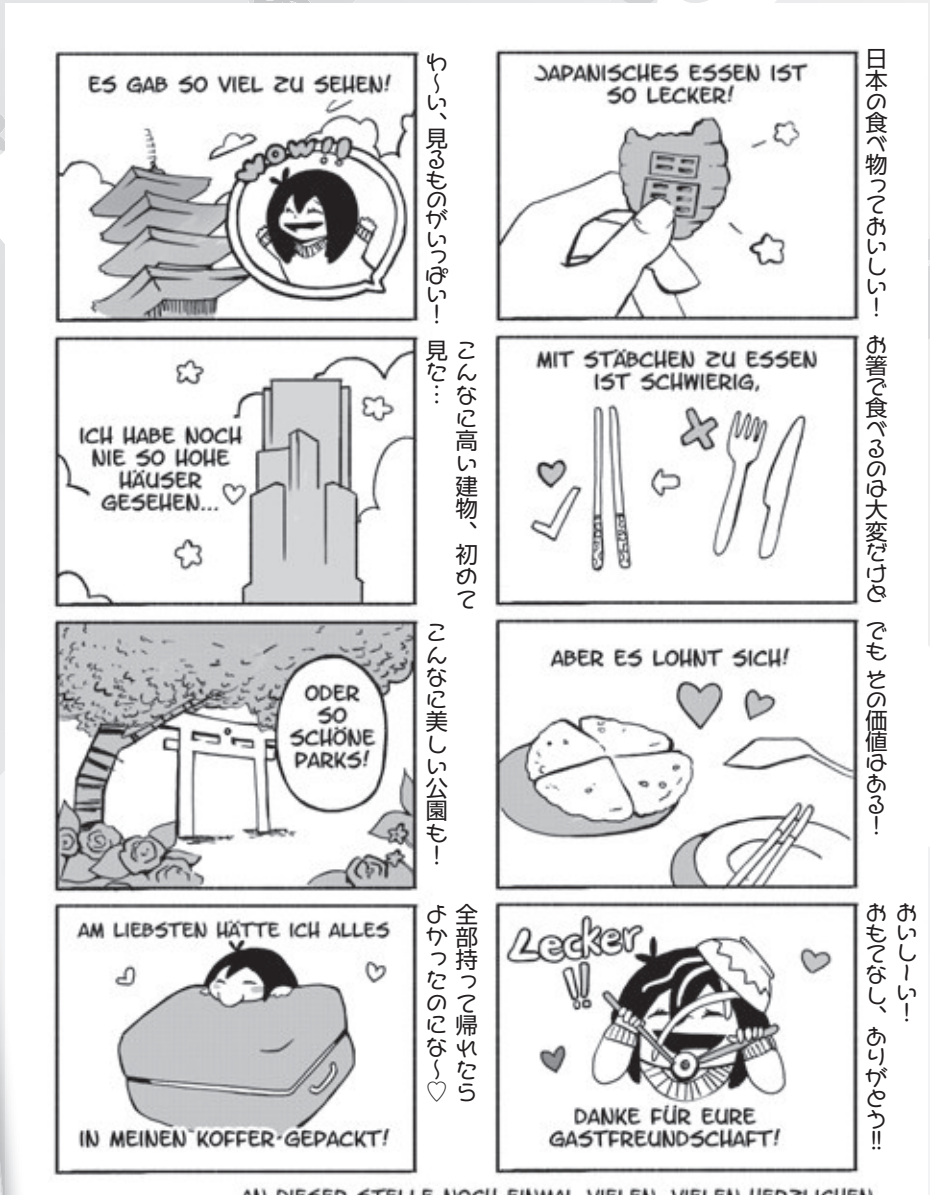
熱々の人形焼きを食べながらようやく辿り着いた浅草寺で、まず線香の煙を浴び、お賽銭をあげてお祈り。宗教的なことはどうかな？と実は気になりましたが、あなたがこだわりなく振る舞っていたのに安心しました。おみくじを引き（吉でした）中身を説明しようとしたら英語の要約つきで、ドイツ語の出番なし！

お昼は名代の店「大黒屋」で天丼。おいしい天ぷらとたっぷりのご飯にお腹いっぱい。私たちをまねて、使った後の割り箸を箸袋にいれて始末したのも異文化体験の一つになったでしょうか。

寒い一日が、あなたとの楽しい思い出の時になりました。ありがとう。浅草の一日があなたの心にも残ってくれたらうれしいです。東京見物のあとの、大阪と京都はどうでしたか。いつか感想をおきかせくださいね。そのときのために、私たちも

„Wir lernen fleißig Deutsch!“

Mit herzlichen Grüßen
ドイツ語 M コース　受講生　山中みどり



Franziska Beyer

この場を借りて、日独協会の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。東京の素晴らしい所を案内して下さった方、ご馳走して下さった方、そして寝る場所を提供して下さった方々のおかげで、本当に素敵で一生忘れられない旅になりました。皆さんから受けたおもてなしはいつまでも忘れません！　フランツィスカ・バイアー

平成 25 年度 公益財団法人 日独協会事業報告

本年度も年初基本方針に沿って運営し、日独両国民の相互理解の促進と親善に一層寄与することができた。

基本方針：

1. 次世代の為の日独協会活動を目指し、若手会員の増加を目指す。
2. 個人会員のシニア会員の維持を目指し、法人会員向企画も実施する。
3. 大学・他団体・他協会との連携を促進する。
4. 実行する企画の収支均衡および新事業としての「ドイツ検定（仮)」の具現化。

この中で特筆すべきは

1）若者交流促進として、ドイツ人職員ならびにドイツ人研修生が中心に多くのイベント、学習の機会を設営し、ドイツへの関心を導いたことで多くの学生・ユース会員の獲得ができた。

2）法人会員向けセミナー「欧州単一特許制度と欧州特許裁判所について」をゾンデルホフ＆アインゼル法律特許事務所の後援を得て実施した。

3）ドイツに関する検定試験の実施につき検討を重ねた。当協会の存在を広く認知してもらう手段および安定した事業確立のため、26 年度にさらに詳細を詰めていく。

成果の具体例：

1. JG シュタムティッシュ、ドイツ語圏文化セミナー、日本発見シリーズ、シュプラッハ・カフェ、シュプラッハ・クナイペ、メルヒェン・シュトゥンデ等、当協会主催のイベントを 93 回開催し、新入会員（学生会員 58 名、ユース会員 58 名他）にもドイツに触れる機会を設営できた。
2. 日仏会館と 2 回目の共催シンポジウム「日独仏における子育て支援―それが少子化問題に与える影響」を実施し、隣国協会と 3 国のワインを囲み友好を深めた。
3. 日独若者交流促進資金を活用した催しの申請が 6 件あり、全国で日独若者の交流が行われた（詳細は 15 ページ参照)。
4. 会報誌 Die Brücke 及び情報ペーパー Der Brückenpfeiler において、興味深い誌面つくりを心掛けることによって内容ある情報を提供できた。またホームページも視認性・操作性を高めるべくリニューアルをおこなった。

Bericht zum Geschäftsjahr 2013

In diesem Fiskaljahr wurden die Geschäfte den zum Jahresanfang festgelegten grundlegenden Prinzipien entsprechend geführt und wir konnten noch mehr zur Freundschaft und zum gegenseitigen Verständnis zwischen Japan und Deutschland beitragen.

Die Grundprinzipien sind wie folgt:

1. Steigerung der Vereinsaktivitäten für die nächste Generation und mehr junge Mitglieder gewinnen.
2. Auch weiterhin attraktiv für ältere Mitglieder bleiben und Veranstaltungen für Firmenmitglieder durchführen.
3. Eine Ausweitung der Verbindung zu Universitäten, anderen Vereinen und Gesellschaften.
4. Eine ausgeglichene Bilanz zwischen Einnahmen und Ausgaben bei den Veranstaltungen und die Konkretisierung des „Deutschen Diploms“ (Vorläufiger Titel).

Besonders zu erwähnen sind:

1) Für die Förderung des Jugendaustauschs haben wir hauptsächlich durch unsere deutsche Festangestellte und unsere deutsche Praktikantin viele Events und Lerntreffen veranstaltet, die für viele junge Japaner zum Anlass wurden, sich für Deutschland zu interessieren und zu einer Steigerung der studentischen Mitglieder und Jungmitglieder führte.
2) Wir haben unter der Schirmherrschaft des Sonderhoff & Einsel Law and Patent Office mit „Das Einheitspatent und ihre Gerichtsbarkeit“ ein Seminar durchgeführt, welches sich hauptsächlich an Firmenmitglieder richtete.
3) Wir haben zahlreiche Überlegungen angestellt zu einer Prüfung mit Thema Deutschland. Um die Existenz unserer Gesellschaft bekannter zu machen und eine gefestigte Geschäftsgrundlage zu haben, werden wir diese Überlegungen im nächsten Jahr noch weiter konkretisieren.

Konkrete Beispiele sind:

1. Der JG Stammtisch, Kulturseminare, die „Japan entdecken“ -Reihe, das Sprachcafé, die Sprachkneipe, die Märchenstunde und andere Veranstaltungen wurden insgesamt 93 Mal durchgeführt und die neuen Mitglieder （58 studentische Mitglieder, 58 Jungmitglieder und andere） hatten Gelegenheit, mit Deutschland in Berührung zu kommen.
2. Wir haben zum zweiten Mal ein gemeinsames Symposium mit dem Japanisch-Französischen Kulturinstitut durchgeführt. Dieses Mal war das Thema „Unterstützung bei der Kindererziehung in Japan, Frankreich und Deutschland“ und im Anschluss gab es einen japanisch-deutsch-französischen Weinabend, bei dem die Freundschaft zwischen den Ländern vertieft wurde.
3. Der Fonds zur Förderung des Jugendaustauschs wurde sechs Mal in Anspruch genommen und im ganzen Land wurde japanisch-deutscher Austausch durchgeführt.
4. In der „Brücke“ wurde und im „Brückenpfeiler“ unter anderem mit „Das deutsche Staatssystem für Anfänger“ darauf geachtet, interessante Artikel zu veröffentlichen und informative Inhalte mit der Leserschaft zu teilen. Des weiteren wurde unsere Homepage einfacher zu bedienen und übersichtlicher gestaltet.

平成 25 年度 公益財団法人 日独協会 決算報告

経常収益が 2.663 百万円増加：この主な要因は受取寄付金が 0.608 百万円増加。受取会費が 0.125 百万円増加（法人会員 3 社減に対し、個人会員がユース会員を中心に 67 人増)。事業収益が 1.47 百万円増加（ドイツ語講座が 2.01 百万円増)。

基本財産運用益が 0.328 百万円増加、経常費用が 2.547 百万円減少：この主な要因は事業費が 5.2 百万円減少、管理費が 0.093 百万円減少。

Rechnungsbericht der Japanisch-Deutschen Gesellschaft für das Geschäftsjahr 2013

Die laufenden Ertragsgewinne sind um ¥2.663.000 gestiegen. Der Hauptgrund liegt darin, dass die Spendensumme um ¥608.000 gestiegen ist. Die Einnahmen durch die Mitgliedsbeiträge stiegen um ¥125.000 (gegenüber den um drei Firmen gesunkenen Firmenmitgliedern sind die Zahlen der vor allem jungen Mitglieder um 67 gestiegen). Die Geschäftserträge sind um ¥1.470.000 Yen gestiegen (der veranstaltete Deutschunterricht stieg um ¥2.010.000).

Die Betriebserträge stiegen um ¥328.000 und die Gesamtsumme der Betriebsaufwendung sank um ¥2.547.000. Der Hauptgrund liegt darin, dass die Geschäftskosten um ¥5.200.000 und die Verwaltungskosten um ¥93.000 gesunken sind.

平成 25 年度決算　（単位／千円）

	24 年度実績	25 年度実績
基本財産運用益	2,502	2,830
受取会費	17,508	17,633
事業収益	21,174	22,644
受取寄付金	608	1,216
雑収益	158	290
経常収益	41,950	44,613
事業費	21,432	18,982
管理費	25,548	25,456
経常費用	46,980	44,438
評価損益等調整前		
当期経常増減	△ 5,030	175
基本財産評価損益等	6,219	1,991
当期計上増減額	1,189	2,166
経常外収益	0	0
経常外費用	0	0
当期経常外増減額	0	0
当期一般正味財産増減額	1,189	2,166

Rechnungsbericht für das Fiskaljahr 2013　(Alle Angaben in 1000 Yen)

	2012	2013
Betriebserträge	2,502	2,830
Mitgliedsbeiträge	17,508	17,633
Geschäftserträge	21,174	22,644
Spenden	608	1,216
Andere Erträge	158	290
Gesamtsumme der Erträge	41,950	44,613
Geschäftskosten	21,432	18,982
Verwaltungskosten	25,548	25,456
Gesamtsumme der Betriebsaufwendungen	46,980	44,438
Differenz Betriebserträge und -aufwendungen vor der Bewertung		
Differenz laufender Gewinne und Kostem in dieser Periode	△ 5,030	175
Kapitalbewertungsgewinn und -verlust	6,219	1,991
Differenz laufender Gewinne und Kostem in dieser Periode	1,189	2,166
Betriebsfremde Erträge	0	0
Betriebsfremde Aufwendungen	0	0
Differenz der betreibsfremden Erträge und Aufwendungen	0	0
Allgemeines Reinvermögen in dieser Periode	1,189	2166

日独若者交流促進資金申請・承認状況

（平成 26 年 7 月 17 日）

若者交流促進資金合計額：　9,800,000 円

平成 25 年 8 月 1 日までの申請・承認額

（平成 25 年本誌 8 月号掲載）：　4,982,875 円

同日現在の若者交流促進資金残額：　4,817,125 円

○平成 25 年 9 月 18 日の運営委員会に申請され、且つ承認された案件：

横浜日独協会　高校生作文コンテスト　200,000 円

○平成 25 年 11 月 18 日の運営委員会に申請され、且つ承認された案件：

いわき日独協会　日独エッセイコンテスト　90,000 円

○平成 26 年 2 月 17 日の運営委員会に申請され、且つ承認された案件：

千葉県日独協会　ドイツにゆかりある歴史の街親睦バス旅行　71,000 円

○平成 26 年 4 月 18 日の運営委員会に申請され、且つ承認された案件：

独日青少年協会　Hallo Japan 2014 第 8 日独ユースサミット　200,000 円

（公財）日独協会全国日独交流センター担当業務人件費（H26 年度）　1,750,000 円

○平成 26 年 5 月 19 日の運営委員会に申請され、且つ承認された案件：

横浜日独協会　高校生作文コンテスト（承認額は 31,416 円）　393 円*

＊承認額は 31,416 円であるが、前記 9 月 18 日承認のコンテスト費用の残額を差し引いた 393 円の振込となった。

◎平成 26 年 7 月 17 日現在の若者交流促進資金残高：2,505,732 円

Fonds zur Förderung des japanisch-deutschen Jugendaustauschs - Übersicht über gestellte und bewilligte Anträge

(Stand 17.7.2014)

Gesamtsumme im Fonds zur Förderung des japanisch-deutschen Jugendaustausches: ¥9.800.000

Anträge und Bewilligungen bis zum 1.8.2013 (Ausgabe der Brücke 8/2013): ¥4.982.875

Derzeitig verbliebene Summe im Fonds zur Förderung des japanisch-deutschen Jugendaustausches: ¥4.817.124

Vom Lenkungsausschuss wurden folgende gestellte Anträge bewilligt:

○Am 18.9.2013 für die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yokohama für einen Aufsatzkontest für Oberschüler ¥200.000

○Am 18.11.2013 für die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Iwaki für einen japanisch-deutschen Essaykontest ¥90.000

○Am 17.2.2014 für die Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Chiba für eine Busreise zu Orten, die mit der deutschen Geschichte in Verbindung stehen ¥70.000

○Am 18.4.2014 für die Deutsch-Japanische Jugendgesellschaft für „Hallo Japan 2014: 8. Japanisch-Deutscher Youth Summit“ ¥200.000 und für die Personalkosten für das landesweite japanisch-deutsche Austauschzentrum ¥1.750.000

○Am 19.5.2014 für Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yokohama für einen Aufsatzwettbewerb für Oberschüler (bewilligt: ¥31.416) ¥393

＊Es wurden 31.416 Yen bewilligt. Da jedoch noch Fördergelder vom Antrag vom 18. September übrig waren, wurden letztendlich nur 393 Yen ausgezahlt.

◎Saldo (Stand 17.7.2014) des Fonds zur Förderung des japanisch-deutschen Jugendaustausches: ¥2.505.732

役　　員

平成 26 年 6 月 3 日現在

公益財団法人日独協会　名誉会員、顧問、名誉会長、理事、監事、評議員、諮問委員

Ehrenmitglieder, Berater, Ehrenpräsidenten, Vorstand, Verwaltungsräte, Aufsichtsrat und Beratungsausschuss der JDG（敬称略）

Ehrenmitglieder
名誉会員

Botschafter a.D. Walter Boss
Botschafter a.D. Wilhelm Haas
Botschafter a.D. Frank Elbe
Botschafter a.D. Henrik Schmiegelow
Botschafter a.D. Dr. Volker Stanzel
Botschafter a.D. Dr. Hans-Joachim Hallier
Botschafter a.D. Dr. Heinrich-Dietrich Dieckmann
Botschafter a.D. Dr. Uwe Kaestner
Botschafter a.D. Dr. Hans-Joachim Daerr
K. Hanai 花井　清

Berater
顧問

K. Sonoda 園田和朗
S. Kawamura 河村繁一

Ehrenpräsident
名誉会長

Botschafter Dr. Hans Carl von Werthern
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使

Präsident
代表理事・会長

S. Komori 古森重隆

Vizepräsidenten
理事・副会長

K. Kimura 木村敬三
H. Hotta 堀田博司

Generalsekretäre
常務理事

S. Kanaya 金谷誠一郎

Vorstandsmitglieder
理事

F. R. Einsel フェリックスーラインハルト･アインゼル
T.Gaku 賀久哲郎
T. Hiramatsu 平松龍文
H. Idehara 出原悠
Y. Koike 古池好
T. Kurokawa 黒川剛
Prof. Dr. H. Menkhaus ハインリッヒ･メンクハウス
Y.Misaka 三阪弥生
T. Nishiyama 西山忠壬
M. Oda 織田正雄
H. Ota 太田元
K. Satō 佐藤勝彦
Y. Taguchi 田口義孝
T.Uji 宇治孝

Verwaltungsräte
監事

H. Etani 恵谷英雄
T. Koizumi 小泉哲哉
A.Okubo 大久保明

Vorsitzender des Aufsichtsrates
評議員会議長

I. Nakagawa 中川巖

Vizevorsitzender des Aufsichtsrates
評議員会副議長

J. Miyai 宮井純二

Aufsichtsräte
評議員

S. Hashiguchi 橋口昭八
M. Hiyama 檜山正子
T. Inoue 井上敏子
N. Isoda 磯田昇
Y. Kasai 葛西敬之
K. Kitamura 北村馨
A. Mimura 三村明夫
K. Mogi 茂木孝一
H. Mori 森弘子
T. Ōgoe 大越忠光
Y. Ohtani 大谷吉廣
Y. Okada 岡田裕
Y. Ōkura 大倉喜彦
Y. Ōshima 大島陽一
N. Sakaguchi 坂口尚史
R. Sakashita 坂下廉二郎
M. Shinki 真木正昭
M. Tanji 丹治誠

Beratungsausschuss
諮問委員

B. Ebisawa 海老澤敏
J. Inoue 井上壽博
K. Iwagami 岩上和道
T. Kikuchi 菊池恒夫
I. Kimura 木村巖
Dr. N. Kimura 木村直司
S. Kito 紀藤重成
S.Sakakibara 榊原定征
Dr. G. Matsuda 松田源治
T. Sawada 沢田敏男
A. Shibata 柴田明
T. Yasuhara 安原正

日独協会への寄附金報告（平成 26 年度分第一次）

Bericht über Spenden an die JDG.（1）

かねてよりご寄付をお願いしておりましたところ、次の方々よりご協賛ご寄付いただきました。当協会の事業運営に善用させていただきます。ご芳志ありがたく厚く御礼申し上げます。

（2014 年 6 月末日現在）

30,000 円
花井　清

21,000 円
Steinberg
Heinz

13,000 円
清水佳代子
森　弘子
北村　馨
出原　悠

12,000 円
（匿名希望）

10,000 円
佐藤浩通
中川　巖

8,000 円
本多巍耀

園田和郎

5,000 円
石川泰三
伊藤容子

4,000 円
宮本雄志郎

3,000 円
西山忠壬
金内啓子
由良玄太郎
若林吉彦
佐藤勝彦
綿貫　尚
羽山誠司
大島陽一
宮内大輔
中島治男
村松紀民夫
丹治　誠

黒川　剛
岡田　裕
北見　隆
梁井秀雄
早瀬　勇
大谷吉弘
茂木孝一
古庄俊子
柳井良子
田中正昭
平松龍文
松藤尊史
辻　祐光
岩越則夫
清水陽一
北川靜雄
土田享子
瀧沢敬三
根木大助
内藤隆雄
今田誠司
児玉恵仁

林　龍代
藤田康二
新福正敞
大久保明
畑　典彦
冨岡達夫
金子三千子
佐々木直之輔
髙石昭吾
堀本　明
内山宣子
中村恭一
織田正雄
神取房代
川西太郎
池田祐子
高橋忠夫
田辺　晶
黒崎　稔
藤井　潤
宿野時子
堀口靖之

佐藤理夫
中村正孝
高橋文子
角田範子
金子敏夫
梁池孝子
宮慶一郎
川田　篤
増澤俊彦
鈴木康夫
小倉　優
山崎悦宏
赤澤正人
関　徹雄
泉保亮子
石川嘉一
宇治　孝
真木正昭
小西紀子
古池　好
島崎一彦
村山新吾

福田隆行
笹木　薫
前野正子
屋敷和子
阿部武弘
伴　文康
岸本玲子
井上壽博
小村真利江
田中正郎
柴田　明
金谷誠一郎
高田　操
三代道義
橋口昭八
宮井純二
奥野正裕
井上敏子
金子昌幸
堀田博司
廣田貞子
鹿村洋人

駒井隆富
山崎加津子
田中章子
阿部高子
森　文彦
小林正文
鈴木一江
千澤忠彦
鈴木政子
（匿名希望）

2,000 円
杉谷昭子
坂口達生
木村敬三
安藤直樹
阿久津幸子
須賀恒夫
中塚えい
児玉朝子
林　徹也

1,000 円
安藤麗子
三木達也
前　義治
芹澤　洋
橋本行枝
松下　亮
飯野多希留
松田泰博
椎名　猛
藤本　悟
志村　梓
西村俊一

（敬称略）

合計
525,000 円

寄付を頂きました折には、今後も随時掲載させていただきます。経理元帳と照合・確認の上掲載しておりますが、万が一お名前の記載漏れ・誤りなどございましたらお手数ですが事務局までお知らせいただけますようお願い申し上げます。

舞台鑑賞

Die Kulturkiste ＝文化の玉手箱＝

ベルトルト・ブレヒト『屠畜場の聖ヨハンナ』

Die heilige Johanna der Schlachthöfe

3月末、東京演劇アンサンブルの『屠畜場の聖ヨハンナ』（ベルトルト・ブレヒト作）*Die heilige Johanna der Schlachthöfe* を観劇してきた。本公演は同劇団創立60周年記念公演の第一弾であり、今年9月には第二弾としてデーア・ローアー作『無実』、そして来年3月には第三弾、ブレヒト作の『第三帝国の恐怖と貧困』が予定されている。シカゴの食肉市場の混乱、何万という失業者たち――救世軍のヨハンナは貧しい人々を救うべくひた走る。何が彼らを苦しめているかを知るべく食肉加工工場へと赴き、またその苦しみを理解させるべく牛肉王モーラーに訴えかける。舞台中央に据えられた巨大なステージは市場を動かす者たちの演壇であり、その下では労働者たちが不当な解雇に怒りを爆発させ、貧しき者たちが身を寄せ合っている。市場崩壊の後、食肉業者たち支配者は再び労働者たち被支配者を体よく飼い馴らすため、信念を貫き行動し死んでいった悲劇のヒロインを「聖」ヨハンナとして、尊い犠牲に仕立て上げる。

演出の小森氏曰く、やり過ぎたところもあるかも知れないとのことであったが、その過剰はわれわれに何を語るのであろうか。原発、TPP、特定秘密保護法案――厳かにドラマチックに劇が進行するさなか、支配者と被支配者を隔てる床に今の日本が直面する問題がキーワードとして突如映し出されることで、作品を取り巻く不穏な空気は決して遠く隔てられた過去の時代のものではないことを喚起し、観客ははっとさせられる。その上を飛び交う「つぶやき」あるいはコメントの「弾幕」は、ネット文化の発達とともに私的な声を公に向けて大量に発信することが容易になり、今や誰もが自由にかつダイレクトに社会へ働きかけることができる時代になったという現代人の自負を象徴するかのようである。しかし、果たしてこれらに空疎な独り言以上の価値が、舞台上の力なきものたちの聞き入れられぬ声以上の重みがあるといえるのであろうか、と考えさせられずにはいられなかった。

かくして、本公演はブレヒトの現代劇をアクチュアルなものとして再構築することで「現代の」現代劇を生み出したのであり、この意味において大成功を収めたといっても過言ではない。（田中洋／神奈川大学非常勤講師）

©東京演劇アンサンブル　撮影／松浦範子　★東京演劇アンサンブルのホームページ　⇒　http://www.tee.co.jp

独検

Diplom Deutsch in Japan ドイツ語技能検定試験

2014 Herbst

1級 準1級 2級 3級 4級 5級

試験日　11月23日（祝）

1級 準1級二次試験 ▸▸▸ 2015年1月25日(日)

試験場（予定）

北海道薬科大　東北大　新潟大　金沢大　筑波大　宇都宮大
群馬大　信州大　獨協大　麗澤大　学習院大　成蹊大　成城大
東京電機大　日本大(三崎町)　法政大　武蔵大　明治大　立教大
慶應義塾大(日吉)　専修大(生田)　日本大(三島)　名古屋大
大阪大　関西学院大　奈良女子大　岡山大　広島大　松山大
山口大　福岡大　長崎外国語大　熊本大　鹿児島大　琉球大

＊独検1級合格者は通訳案内士試験の「外国語」筆記試験が免除されます。

願書受付　9月1日～ 10月10日(金) ＊消印有効

＊書店・生協での払込みは10月9日(木)まで

「受験要項」を御希望の方は……
定形長3（23.5×12cm）の封筒に受取人の住所・氏名を書き,92円切手を貼ったものを同封して,事務局あてに御請求ください。
要項請求は出願締め切りの4日前までに必着のこと。　＊独検のポスターを掲示している書店・大学生協でも扱っています。

公益財団法人ドイツ語学文学振興会 独検事務局
http://www.dokken.or.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷5-29-12-1006
電話（03）3813-0596

後援 ● ドイツ大使館　オーストリア大使館　スイス大使館
ドイツ学術交流会　ゲーテ・インスティトゥート
公益財団法人　日独協会
協力 ● ルフトハンザ　ドイツ航空会社

ドイツ語講習会
2014 年度上半期コース
火～日曜、協会セミナールームにて開講。
Deutschkurse in der JDG
April 2014- September 2014
jeden Di.-So.

ドイツ語特許翻訳入門講座
6/27 (金)　19:00 ～ 21:00
第 2 回を開催。
Patentübersetzung für Anfänger
Zeit: Fr., 27. 6. 14, 19:00-21:00

ドイツ語圏文化セミナー 65
ドイツの教育制度、その成り立ちと仕組み、改革
6/6 (金)　19:00 ～ 21:00
ベルリン フンボルト大学を卒業し、現在は法政大学大学院に通うルイーゼ・カーロさんに、ドイツ独特の教育制度について、その成り立ちや改革の背景にあるものを、ご自分の体験も交えながら語って頂きました。
65. Kulturseminar des Deutschen Sprachraums: Das deutsche Bildungssystem
Zeit: Fr., 6. 6. 14, 19:00-21:00

メルヒェンシュトゥンデ
6/12 (木)　14:00 ～ 15:30
今月から „Die Gänsemagd“（がちょう番の娘）がスタート。今回のお話でも登場人物達には名前がありません。でもなぜか馬には Falada という立派な名前が。不思議です。王女様が出立する時に母である王妃様が王女の身を案じてハンカチに自分の血を 3 滴垂らしてもたせるシーンが出てきますが、これは今でもドイツにある古いおまじないだそうです。
Märchenstunde
Zeit: Do., 12. 6. 14, 14:00-15:30

ドイツに学ぶ会
6/14 (土)　17:30 ～ 19:30
テーマ：ドイツにおけるマイスター制度「ドイツの教育」の第 2 回目として、ドイツにおけるマイスター育成制度について、日本企業のマーケティング部マネージャーとして長期に渡り活躍され、日本人のゲゼレ・マイスターの人材育成にも大きく貢献されているデーネ・シルヴィア博士からご講演頂き、更に同制度の日本人への紹介を行っている㈱ダヴィンチインターナショナル代表の松居氏、高野氏から説明を頂きました。マイスターとその前段であるゲゼレの資格取得を目指す人々に、週数日を企業における実習、残り数日を職業学校での教育という並立した職業教育を行うデュアル・システムの紹介と、ドイツ社会での普及状況等の現状について興味深いお話を伺いました。（小倉）
Von Deutschland lernen
Zeit: Sa., 14. 6. 14 17:30-19:30

独逸塾
6/16 (月)　18:30 ～ 20:30
本年 3 月 17 日付 SZ 紙（南ドイツ新聞）「宇宙誕生時のシグナル」を読了。内容に関する説明が専門的である箇所があり聊か苦労した。アインシュタインの理論の言及箇所では理系の参加者からの解説があり皆大いに助かった。
インフレーションからビッグバンまでの 10 の 35 乗分の 1 秒の秒が複数形で表される事を巡って、この間参加者同士でメールによる意見交換が行われた。最後にテレビ東京本年 3 月 22 日放送の「137 億年の物語」から「宇宙が始まる前の物語」（27 分）を見た。（岡田）
Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland- Doitsujuku
Zeit: Mo., 16. 6. 14, 18:30-20:30

シュブラッハ・カフェ
6/18 (水)　14:00 ～ 15:30
今回のテーマは都議会での品のないヤジも記憶に新しい「Gender」（ジェンダー）でした。2013 年のジェンダーギャップ（男女平等）指数ランキングで、日本は 105 位と先進国の中で下から数えた方が早いくらい女性の社会的立場が低く、いまだに女性蔑視の考えが色濃く残っています。対してドイツは 14 位。様々な分野での調査結果を基に、両国の比較討論を行いました。
Sprachcafé
Zeit: Mi., 18. 6. 14, 14:00-15:30

Stammtisch
6/19 (木)　14:00 ～ 16:00
ビヤホールライオン銀座七丁目店
今月の参加者は 9 名。今回もドイツ駐在経験者が多く集まったため、当時を振り返ったり、参加者の方が主催するドイツ関連のイベントの案内、現在のドイツ情勢についてなどよもやま話で盛り上がりました。
Stammtisch
Zeit: Do., 19. 6. 14, 14:00-16:00
Ort: Bierhalle Lion Ginza 7chome

運営委員会
6/20 (金)　14:00 ～ 16:10
○ 6 月決算見通しは、法人会員の会費は大部分が納入されているが、本日現在、6 社が未払い、予算比 100 万円超の減。月末までの納入をお願いする。○日独若者交流促進資金の申請が、香川日独協会より再提出されたが、一部内容変更を依頼することに。○職員給与の消費税増税分の調整を実施する。報告事項としては○ドイツ検定は、共催者が他の検定にドイツ検定を含める場合にドイツ検定を当協会主催とすることを主張することに。○日仏会館との共催事業に関して、テーマは「日仏独 外国人労働力の活用」とする。○日独若者交流促進資金の使用報告がいわき、千葉県から提出された。○業務執行理事の担当業務毎の作業内容と担当者について報告あり。なお、現在、約 65 に及ぶ協会事業の見直しを、企画実行委員会で 1 月までに実施することに。○ 5 月の独日協会連合会創立 50 周年記念総会参加報告が黒川理事より行われた。参加者 25 名の内、80 才以上が 5 名。一部期待外れの視察もあったが、幼少時に滞独経験のある女性には昔の思い出をたどる旅となり、また、日本の青年部に関する質問には現在準備中との回答をしたなどの報告あり。
Ausschuss für die Geschäftsführung
Zeit: Fr., 20. 6. 14, 14:00-16:10

ドイツ語圏文化セミナー 68
ドイツ語の曲と歌のゼミナール
6/20 (金)　19:00 ～ 21:00
ドイツ音楽と言えば、クラシックをあげる人が多いでしょう。もちろんクラシックは素晴らしいです。ですが、ドイツの音楽はそれだけではありません。今もステキな曲が生み出されています。このゼミでは研修生のアニャさん選りすぐりの「旬」のドイツの歌を紹介し、その歌詞を参加者の方たちと日本語に訳すなどして味わいます。第 1 回めの今回は Ich ＋ Ich の „STARK“ と Unheilig の „Geboren um zu leben“ を取り上げました。
68. Kulturseminar des Deutschen Sprachraums: Lasst uns deutschsprachige Lieder und Musikstücke übersetzen
Zeit: Fr., 20. 6. 14, 19:00-21:00

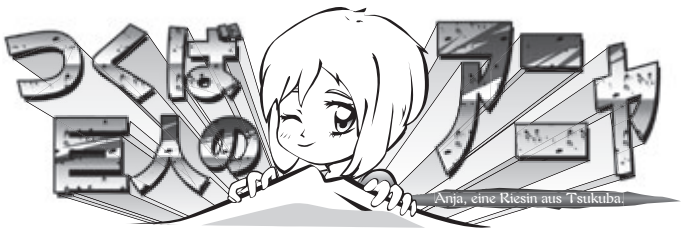
JG Stammtisch サマーピクニック
6/21 (土)　14:00 ～ 17:30
代々木公園
恒例となりつつある代々木公園でのピクニック。今回はドイツ的な食べ物か飲み物持ち寄りという形で開催しました。メイド・イン・ジャーマニーでなくても、ドイツ（語圏）を連想させるものならOK ということで、ドイツのビールやワイン、ブレッツェル等の他に、お手製の「黒い森のサクランボ酒ケーキ」やドイツ国旗カラーのサラダを持って来られた方なども（美味しかったです！）。日独総勢 60 名ほど集まり、会話やバレーボールなどを楽しみました。
JG Stammtisch Sommerpicknick
Zeit: Sa., 21. 6. 14, 14:00-17:30
Ort: Yoyogi-park

会員懇談会サロン
6/23 (月)　18:00 ～ 20:00
今回は元ジェトロ駐在員で元ベルリン独日協会副会長を務められた伊崎捷治氏に「数字で比較する日本とドイツ」と題して、Die Brücke 4 月号のコラムで同氏が記述された内容を掘り下げ、更に、ロシアをめぐる日独のエネルギー事情についてお話し頂いた。
JDG-Mitgliedertreff
Zeit: Mo., 23. 6. 14, 18:00-20:00

ドイツ語受講生と先生のためのサマーパーティー
6/28 (土)　17:30 ～ 20:30
すっかり定着した感のあるドイツ語受講生と先生のためのパーティー。長く学ばれている方から春に入門を始めた方など顔触れは様々。クラスの垣根を越えてあちらこちらで会話が盛り上がっていました。今回のゲームは、あるアルファベットを頭文字に持つ 4 つのドイツ単語（名詞・動詞・形容詞・その他何でも可）を相手より先に答えた方が勝ちというものです。入門クラスの生徒さんにドイツ語には少ない C が当たって苦戦を強いられたり、中級クラスではハイレベルな戦いが繰り広げられる等エキサイトしました。
Sommerparty für Deutschlerner
Zeit: Sa., 28. 6. 14, 17:30-20:30

シュブラッハ・クナイペ
6/30 (月)　19:00 ～ 20:30
ドイツと一口で言っても、ベルリンやミュンヒェンのような大都会と名前もほとんど知られていないような田舎の町や村では、建物の様式や（公共）施設の配置、交通機関、人々の生活スタイル等、そのありようはかなり異なります。日本でも同じことが言えますよね。そこで今回は『ドイツの都市と田舎の生活』をテーマに、ドイツの都市と田舎の相違点を紹介したりしました。都会には都会の、田舎には田舎の良さがありますから、ドイツを旅される方はぜひ両方経験して欲しいと思います。きっと多面的なドイツの魅力を発見できるはずです。
Sprachkneipe
Zeit: Mo., 30. 6. 14, 19:00-20:30

※ 記載のないものは協会セミナールームにて開催



ハロー ^_^！

今回は私の故郷について書きたいと思います。それはハルツという山地です。

ハルツ山地（ドイツ語：Harz）は、ドイツの中北部に位置する山地です。1,141mある一番高い山はブロッケン山と言います。ハルツ山地の北にあるゴスラーという町は神聖ローマ帝国の主要な都市で、皇帝や王が定期的に居留しました。ハインリヒ3世は現在世界遺産になっている皇帝居城の建設を完成させました。

ハルツ山地は鉱山で、昔から多くの地下資源が産出されました。中世以降は魔女の住む山として神秘的な山と見なされるようになりました。特にブロッケン山やターレ町は魔女のいるところとして有名になり、ターレ町には『魔女の踊る広場』という場所もあります。中世の時代、人々は、魔女は人を幻惑させる力を持ち、悪魔と結託する悪女と忌み嫌っていました。4月30日のヴァルプルギスの夜は、ブロッケン山に魔女たちが集まって宴を開き、春の到来を待つと言われています。ゲーテやハインリヒ・ハイネがハルツに滞在して、紀行文などで紹介しました。ゲーテの『ファウスト』という著作には魔女とブロッケンが登場し、ブロッケンの魔女への関心を最も高めました。ハルツ山地で一番人気があるお土産は魔女の人形です。現在はヴァルプルギスの夜にお祭りが行なわれて、幽霊やお化けを追い払うとして『魔女の火』や『5月の火』と呼ばれるかがり火が焚かれます。私も子供の時は、いつも魔女の衣装を着て、家族と一緒にそのお祭りに遊びに行きました。私にとって魔女たちはあまり怖くなくて、それどころか大きな鼻といぼのせいで面白いと思っていました;)

19世紀以降、観光地と保養地として人気が出ましたが、第二次世界大戦後はハルツに東西ドイツの国境が引かれて、ドイツ分断を象徴する地のひとつになりました。1990年の再統一の後、ハルツは観光地として再び人気となり、2006年には国立公園に指定されて、200年もの間姿を消していた山猫（Luchs）も再び戻って来ました。

お時間があれば、美しく、伝説と歴史に満ちたハルツ山地をぜひ訪れてみてください。

アニャ

（写真提供：Piotr Sala）

Hallo ^_^！

Dieses Mal möchte ich über meine Heimat, den Harz schreiben. Der Harz ist ein Gebirge und liegt im nördlichen Teil Mitteldeutschlands. Der mit 1,141m höchste Berg heißt Brocken. Die Stadt Goslar, die im nördlichen Harz liegt, war eine wichtige Stadt zu Zeiten des Heiligen Römischen Reiches und Kaiser sowie Könige hielten sich regelmäßig dort auf. Heinrich der 3. vollendete den Bau der Kaiserpfalz, die heute zum Weltkulturerbe gehört.

Seit jeher sind in den Bergwerken des Harzes zahlreiche Bodenschätze gewonnen worden. Im Mittelalter nahm man an, dass im Gebirge Hexen leben würden, wodurch der Harz als äußerst mystisch gegolten hat. Besonders der Brocken und die Stadt Thale werden als Hexenorte bezeichnet und es gibt in Thale auch den sogenannten „Hexentanzplatz“. Im Volksglauben hieß es, die Hexe sei eine mit Zauberkräften ausgestattete und mit dem Teufel im Bunde stehende böse Frau. In der Walpurgisnacht am 30. April sollen sich angeblich Hexen auf dem Berg treffen und ein Fest feiern. Goethe und Heinrich Heine besuchten zeitweilen den Harz und beschrieben diesen in ihren Reiseberichten. In Goethes Werk „Faust“ kommt auch die Walpurgisnacht vor, weshalb deren Popularität auf dem Brocken wesentlich gesteigert worden ist. Das beliebteste Souvenir des Harzes ist die Hexe als Puppe. Heutzutage finden Volksfeste zur Walpurgis statt. Ein sogenanntes „Hexenfeuer“ oder „Maifeuer“ wird entfacht, mit dem man „die bösen Geister“ vertreiben will. Als ich noch ein Kind war, habe ich mich immer als Hexe verkleidet und bin zusammen mit meiner Familie auf ein Fest gegangen. Vor Hexen hatte ich keine Angst, ich fand sie aufgrund ihrer großen Nasen und Warzen eher lustig ;)

Vom 19. Jh. an wurde der Harz als Touristenziel und Kurort beliebt, mit Ende des 2. Weltkrieges wurde durch ihn hindurch die Grenze zwischen Ost und West gezogen und er gilt somit als Symbol der deutschen Teilung. Nach der Wiedervereinigung 1990 gewann der Harz wieder als Touristenziel an Beliebtheit. 2006 ist er zum Nationalpark ernannt worden und auch der Luchs ist nach ca. 200 Jahren Abwesenheit endlich wiedergekehrt.

Wie Sie sehen, ist der Harz also ein einmalig schönes Gebirge mit einer reichen Geschichte. Besuchen Sie ihn doch einmal ;)

Anja

会員のひろば Aus dem Mitgliederkreis

■新着図書等の紹介
(Neue Bücher bei der JDG)
○ペーター・ヤノハ・青柳 正俊著／青柳正俊訳「新潟居留ドイツ商人ウェーバーの生涯」㈱考古堂書店 2014（著者より寄贈）
○ Peter Janocha/Masatoshi Aoyagi 著「Ein norddeutscher Kaufmann in Japan zur Zeit der Meiji-Restrauration, Arthur Richard Weber」IUDICIUM Verlag GmbH München 2014（著者より寄贈）
○寄川 条路著「東山 魁夷 ふたつの世界、ひとすじの道」㈱ナカニシヤ出版 2014
○ルプレヒト・フォンドラン編「生き生きとした友好関係　ドイツと日本／Gelebte Partnerschaft Deutschland und Japan」Verband Deutsch-Japanischer Gesellschaften 2014
○大久保 明著「慣らしの時間　大久保明歌集」六花書林 2012（著者より寄贈）

＜お知らせ＞

Der Brückenpfeiler 7 月号に、本誌上でゾンマーフェスト 2014 の詳細をお知らせする旨、掲載致しましたが、大使公邸の改修工事の遅れにより、現時点では開催の目途が立っておりません。大使よりお約束はいただいておりますが、まだ具体的な日程の調整がついていない状況です。決まり次第お知らせ致しますので、今しばらくお待ちくださいますようお願い申し上げます。

Informationen（ドイツ関連情報いろいろ…）

日独協会後援の催し物
(Veranstaltungen unterstützt von der JDG)

●第 5 回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan
地区予選・千葉
8 月 26 日㈫　千葉市美浜文化ホール・音楽ホール
（申し込み締切 8 月 9 日㈯）
地区予選・東京 2
9 月 6 日㈯　文化シャッター BX ホール
（申し込み締切 8 月 12 日㈫）
募集要項：http://www.europe-piano.com/
問合せ先：ヨーロッパ・ピアノ協会
〒 150-0001　東京都渋谷区神宮前 5-24-2
Tel 03-3407-2880（9:00 ～ 18:00 土・日・祝日を除く）
Fax 03-3407-2881/E-mail：info@europe-piano.com

● Hallo Japan 2014　第 8 回日独ユースサミット
日時：8 月 29 日～ 9 月 7 日
場所：東京都内（代々木オリンピックセンター）
問合せ先：http://www.djjg.org/ja/hallo-japan-2014/2014

Goethe-Institut のホームページより
(Von der Webseite des Goethe-Instituts)

●対談とディスカッション
ハンナ・アーレント：人間的なものへの信頼
2014 年 9 月 26 日㈮　18:30 ～ 20:30
10 月 10 日㈮　18:30 ～ 20:30
東京ドイツ文化センター図書館
日本語　参加無料、要参加登録
『全体主義の起源』や『人間の条件』などで知られる、20 世紀を代表する政治哲学者ハンナ・アーレント。混迷を極める現代世界の状況下で、彼女の思索への注目度はますます高まってきている。彼女の政治的思索のキー概念「現れ」や「あいだ」とはどのようなものなのか。また、彼女はなぜ論争を生むような『イエルサレムのアイヒマン』を書いたのか。さらに、彼女は広島、長崎への原爆投下を 20 世紀における決定的な出来事として捉え、きわめて重要な原子力論を展開している。以上のような観点を押さえ、現在アーレント研究の第一線で活躍する二人の研究者、矢野久美子氏（フェリス女学院大学）と森一郎氏（東北大学）をお迎えし、二人の対談を通じて、ハンナ・アーレントの思索の全体像を捉える。
ハンナ・アーレントに関心を寄せる人には、絶対見逃せないシリーズ企画。奮ってご参加ください。
問合せ先：Tel 03-3584-3203　yoshitsugu@tokyo.goethe.org

日独協会関連の催し物
(Veranstaltungen von Mitgliedern und Freunden der JDG)

●講演会
ドイツの世界遺産についての講演会（ドイツ語）
メルヘン街道沿いにある帝国僧院コルヴェイがドイツ 39 番目の世界遺産に指定されたことを記念し、ドイツ観光局は東京ドイツ文化センターと共同で、ドイツ語でドイツの世界遺産を紹介する特別講演会を催します。
日時：7 月 29 日㈫　18:30 ～　ドイツワイン試飲会
19:00 ～　ドイツ語による講演会
場所：ドイツ文化会館 1 階大ホール　（港区赤坂 7-5-56）
問合せ：office-japan@germnay.travel
※ 100 席限定のイベントですので、席を予約されたい方は以下のアドレスに**ドイツ語で**お申し込みください。
（お名前はアルファベットでお願いします）

●演劇
東京演劇アンサンブル創立 60 周年記念公演Ⅱ「無実」
デーア・ローアー作　三輪玲子訳
日時：9 月 13 日・14 日・15 日・20 日・21 日　14:00 開演
9 月 11 日・12 日・17 日・18 日・19 日　19:00 開演
（開場は開演の 30 分前・整理番号順入場）
場所：ブレヒトの芝居小屋（西武新宿線武蔵関駅より 6 分）
入場料：前売り一般 3800 円前売り学生 3000 円
当日 4500 円
12 日・17 日は Low Price Day 2500 円
チケット申し込み・問合せ先：東京演劇アンサンブル
Tel 03-3920-5232/Fax 03-3920-4433　ticket@tee.co.jp

●＜ツアー参加者募集＞
オクトーバーフェストとビール醸造所を巡る旅
（2014 年 9 月 25 日㈭～ 10 月 1 日㈬〈羽田発着〉）
毎年 9 月末から 10 月初めにかけてドイツ・ミュンヘンで開催される世界最大のビールの祭典「オクトーバーフェスト」。一度行ってみたいという方も多いのですが、この時期、個人で行くには宿を確保するのが難しいなど、色々と大変です。今回、皆様の声にお応えして、ジャパンビアソムリエ協会会長の森本智子自ら同行するツアーを企画いたしました。 オクトーバーフェストだけでなく、世界最古の醸造所訪問など、ビール好きなら行っておきたいドイツビールの名所なども巡ります。ぜひこの機会にご検討ください。
問合せ・申込み先：ジャパンビアソムリエ協会代表森本智子
Tel 080-4290-6095
詳細：http://www.beersom.com/archives/411

●カンタータ・ムジカ・Tokyo　団員募集
バッハの「ロ短調ミサ」を一緒に歌いませんか？
1998 年の結成以来、J.S. バッハの宗教曲を中心に 23 回の演奏会を重ねてきたカンタータ・ムジカ・Tokyo は満を持して次回演奏会でバッハの大作「ロ短調ミサ」を取りあげることになりました。私たち団員一同、バッハが最晩年に自身の音楽の集大成として完成させたこの大曲の核心に迫りたいと張り切っています。この機会に来年 2 月の演奏会までの旅路を共にする仲間を募集しております。私たちの合唱団への入団資格は「バッハの音楽と歌うことを愛すること」だけです。楽譜が読めなくても、合唱の経験がなくても、音楽への熱意と愛情があれば「ロ短調ミサ」は歌えます。ぜひ私たちとこの宗教音楽の最高峰にチャレンジしませんか。
練習日時：毎週土曜日午前 10 時～正午まで
練習場所：中野もみじ山文化センター
（JR 中野駅南口より線路沿い新宿方向徒歩 7 分）
または、日本基督教団巣鴨教会
（JR 大塚駅南口よりプラタナス通り徒歩 10 分）
月団費：一般 4000 円、学生 2000 円
演奏会：2015 年 2 月 14 日㈯　午後 2 時（於 杉並公会堂）
演奏会参加費：40,000 円以内
問合せ・申込み先：カンタータ・ムジカ・Tokyo（本橋和子）
Tel/Fax 03-3990-3686　paddymix@nifty.com
詳細：http://sound.jp/cantata-musica-tokyo/

タベアの
驚いてSie!?

名前を省略してはいけないあの人

つい最近、ある洗剤が自主回収されました。なぜかと言いますと、期間限定で発売された徳用商品（通常 83 回分洗濯が出来るものに 5 回分を増量）のパッケージに大きく「88」という数字がデザインされていたからです。ところが、この「88」という数字はドイツではヒットラーを崇拝する表現として認識されています。そのことに気づいた消費者がインターネット等で猛反発を起こして今回の騒動に発展したのです。

回収された洗剤

えっ?なんで?と思う読者の方も多くいらっしゃるのではと思いますので、その理由を説明したいと思います。ナチス時代の挨拶は「Heil Hitler（ハイル・ヒットラー）」だったということはご存知ですよね。「H」はアルファベットの 8 番目の文字ですから「88」は「HH」。つまり、「Heil Hitler」を暗に意味する表現になるのです（当然、「HH」もダメです）。ダイレクトな表現でもないのに、すべての洗剤を廃棄するのは大げさじゃないですか?という意見もあるかもしれませんが、ヒットラーやナチス時代に関してドイツ人はとても敏感です。

日常生活を送る中で他にも同じような現象があります。法律で禁止されていなくても、自主的に検閲が実施されています。例えば、大学には冬学期（Wintersemester）と夏学期（Sommersemester）がありますね。冬学期の省略は「WS」ですが、夏学期は「SoSe」です。なんで同じように「SS」にしませんか?そうです。ナチスの親衛隊「Schutzstaffel」がいつも「SS」と省略されていたからです。

ヒットラーが書いた『わが闘争』を読むことはもちろん、右向きの「卍」やナチス時代の旗を使うのも法律で禁止されています。車のナンバープレートもランダムで配布されていますが、「NS」（Nationalsozialismus の略）は存在しません。

二つの指で上唇に指すのは、「ヒットラー」という意味なので要注意！

「ハイル・ヒットラー」と言って、腕を挙げて挨拶することも絶対にダメです。数年前、上司に誘われて食事に行ったレストランの店長に「あなた、アメリカ人ですか?」と聞かれて、「いいえ、ドイツから来ました」と答えたら、店長はいきなりとても明るい笑顔になって、「ドイツですか!! ハイル・ヒットラー!」と言ったので私はリアクションに困ると同時に物凄くショックを受けました。ドイツ人だと知って、店長は歓迎を表すためにそう言ったのだと思いますが、ドイツ人にとって、その挨拶はあまりにも NG です。苦笑いも出来ないほど問題です。

実際、ドイツではこのナチス式の挨拶をすることも法律で禁止されています。最大 3 年間、刑務所での服役を命じられることもあります。えっ?でも、こんな法律は、ドイツ基本法（憲法）第 2 条「人格の自由、人身の自由」に書かれている「自らの人格の自由な発展を求める権利を有する。」と矛盾しませんか?とたまに聞かれます。そう思えなくはないかもしれませんが、すべての文章を読んでみると、「何人も、他人の権利を侵害せず、かつ憲法的秩序または道徳律に違反しない限り、自らの人格の自由な発展を求める権利を有する。」です。この「他人の権利を侵害せず」というところが最も大事だと思います。だから、非常に議論好きのドイツ人でも、歴史上最大の罪を犯したナチスドイツを尊敬するという意見・意思は絶対に認められていないのです。

編集後記

■サッカー・ワールドカップ・ブラジル大会の決勝戦は最終日の 7 月 13 日（日本時間 14 日㈪午前 4 時）にリオデジャネイロで開始され、ドイツチームが、名将メッシ（今回の最優秀選手 MVP に選ばれた）の所属するアルゼンチンチームと対戦、死闘を演じ、延長戦の結果 1-0 で勝利。1990 年イタリア大会以来 24 年振り 4 回目で然も南米で開催した大会では初の優勝を飾った。そのうえ、ゴールキーパーのノイアーはゴールデン・グローブ賞（最優秀 GK）に輝いた。ドイツ国民の応援と期待に見事に応え、優勝したドイツチームの健闘をたたえたい。（西）

■「いまどき外国語学習法」、自分がドイツ語を勉強していた時代に比べると本当に便利になったなあ、と感心しました。家にも語学オタクが一人いて今はフィンランド語に嵌っているのですが、やはり iPod の言語をフィンランド語にしたりネットでフィンランドのニュースを聞いて日本のニュースをフィンランド経由で知ったりしています。辞書に載っていない名詞を画像検索で調べるというのも良いアイディア。でも肝の部分「失敗を怖がらない」はハイテクの時代になっても変わらないな、と思いました。（池）

発送作業を手伝って下さったボランティアの皆さんに心から感謝します。

＜お知らせ＞今夏も節電対策を兼ねて、8 月 9 日㈯～ 8 月 24 日㈰の期間中、夏期ドイツ語講習会と文化講座に関する業務を除き、事務局はクローズ致します。その間に頂いた各種お問い合わせ・お申込みにつきましては、8 月 25 日㈪以降順次対応致します。ご不便をお掛け致しますが、何卒ご了承下さい。また、9 月は「Der Brückenpfeiler」はお休みを頂き、次回は「Die Brücke」10 月号となります。皆様、どうぞ素敵な夏をお過ごし下さい。

Die Brücke 架け橋
日独協会機関紙「Die Brücke 架け橋」第 677 号　2014 年 8 月 1 日発行／隔月刊
編集責任：金谷誠一郎（編集長）公益財団法人日独協会／電話：03-5368-2326／FAX：03-5368-2065／http://www.jdg.or.jp
住　所：〒160-0016 東京都新宿区信濃町 18（マヤ信濃町 2 番館）／印刷・製本：三和印刷株式会社
禁 無断転載

「Die Brücke 架け橋」第六七七号平成26年8月1日発行（隔月刊）公益財団法人 日独協会 定価一部三百円

FUJIFILM
Value from Innovation

80th Anniversary

Photo：ハービー・山口

瞳の奥にある希望を撮りたい。
だから、このキレ味とボケ味が
必須なんです。

写真家 ハービー・山口

FUJIFILMの色
FUJIFILMの写真

FUJIFILMの作る
キレ味、ボケ味の優れたレンズ。

優しい目のまつげに
ドンピシャでピントがきて、
背景はスッとボケていく。

非常にいい色。

この柔らかい色のつながり、
さすがだね。

とにかく色がきれい。

写真家 ハービー・山口

X-T1

http://fujifilm-x.com/x-t1/　FinePix サポートセンター　Tel.050-3786-1060　受付時間/月曜日～金曜日9:00～17:40 土曜日10:00～17:00（日・祝日・年末年始を除く）